
角田市第6次長期総合計画策定のための

市民アンケート調査報告書

令和2年8月

角 田 市

= 目 次 =

市民アンケート調査の結果

I	市民アンケート調査の概要	1
	(1) 調査の目的.....	1
	(2) 調査方法.....	1
	(3) アンケート調査票の構成.....	1
	(4) 回収状況.....	2
	(5) 回答者の属性.....	3
II	調査結果	7
1	市民アンケート調査結果のまとめ.....	7
2	角田市での暮らしについて.....	10
	(1) 暮らしやすさ.....	10
	(2) 定住意向.....	11
3	角田市の取り組みについて.....	13
	(1) 3つの重点プロジェクトの効果・重要度.....	13
	(2) 行政サービスの満足度・重要度.....	15
	(3) 施策分野別の満足度・重要度.....	18
	(4) 行政全体に対する満足度.....	25
4	これからのまちづくりの課題と方向性について.....	26
	(1) 人口が減少した際の課題.....	26
	(2) 人口を減少させないための施策.....	27
	(3) 行政運営に係る市民参画.....	28
	(4) 角田市独自の地域資源.....	29
	(5) 角田の5つの“め”.....	30
	(6) これから重点をおくべき施策について.....	31
5	角田市の環境政策やあなたの環境意識について.....	32
	(1) これからの地球環境問題について.....	32
	(2) 良い環境にするために行政がすべきこと.....	33
	(3) 環境保護のための対策や活動.....	34
6	令和元年東日本台風等の被災経験を教訓とした今後の施策について.....	36
	(1) 角田市が行うべき防災・減災に関する施策.....	36
7	まちづくりについての自由意見.....	37

市民アンケート調査の結果

I 市民アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、市民のまちづくりに関する意識・ニーズ等を広く把握し、角田市第6次長期総合計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

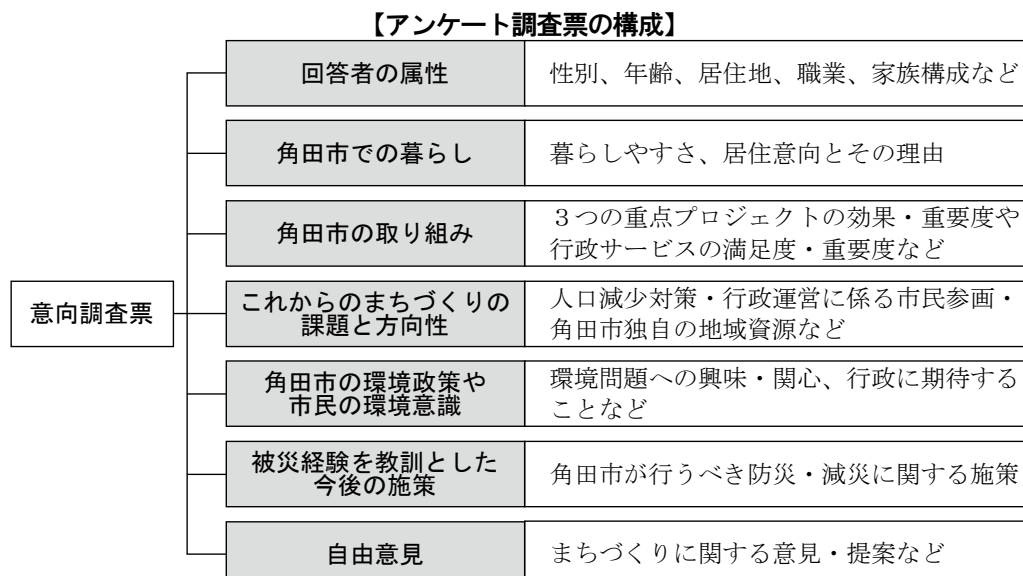
(2) 調査方法

調査対象（配布数）	16歳以上の市民3,000人 (令和2年4月30日現在の住民基本台帳より無作為に抽出)
調査期間	令和2年5月22日～令和2年6月8日
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収
回収結果	回収票1,230票（回収率 41.0%）

(3) アンケート調査票の構成

アンケート調査票は、「回答者の属性」、「角田市での暮らしについて」、「角田市の取り組みについて」、「これからのまちづくりの課題と方向性について」、「角田市の環境政策やあなたの環境意識について」、「令和元年東日本台風等の被災経験を教訓とした今後の施策について」及び「自由意見」の6つの構成を基本に意向把握を行った。

また、現行の長期総合計画（角田市第5次長期総合計画）に掲げる『54の主要施策』についての「満足度」と「重要度」の評価を実施した。



(4) 回収状況

アンケート調査票の回収状況は下表のとおり、市全体で41.0%の回収率となった。
男女別の回収率は女性が男性を8.1%上回り、年代別では70歳代の56.7%が最も高い。

表 年代別回収数・回収率についての想定との対比

	配布数	回収数	回収率	回収数の内訳		
				男	女	無回答・無効
10歳代(16~19歳)	250	63	25.2%	21	42	0
20歳代	450	135	30.0%	55	80	0
30歳代	500	170	34.0%	76	93	1
40歳代	500	207	41.4%	88	119	0
50歳代	500	209	41.8%	90	119	0
60歳代	350	185	52.9%	83	100	2
70歳代	300	170	56.7%	83	85	2
80歳代以上	150	78	52.0%	44	32	2
無回答・無効		13		0	2	11
		1,230	41.0%	540	672	18

表 男女別回収状況

性別	男性	女性	無回答・無効	合計
配布数	1,488	1,512		3,000
構成比	49.6%	50.4%		100.0%
回収数	540	672	18	1,230
構成比	43.9%	54.6%	1.5%	100.0%
回収率	36.3%	44.4%		41.0%

(5) 回答者の属性

- 回答者の男女別構成は女性が54.6%、男性が43.9%で、女性が10.7ポイント上回っている。平成27年3月に実施した角田市第5次長期総合計画後期基本計画策定支援業務における市民意識調査報告書（以下、「前回調査」という。）においても、女性：51.5%、男性：47.7%で女性が3.8ポイント高かったが、今回の調査ではより一層女性比率が高くなっている。
- 年代別では、本調査において新たに10歳代（16歳～19歳）を加えより広い年齢層の意見を反映させるよう努めた。回答者の割合については、60歳以上は、前回調査では、55.3%を占めたのに対し、本調査では35.1%と20.2ポイント低下した。一方、30歳代以下は10歳代を含め29.9%で、前回調査の15.2%と比較して倍近くの割合となった。
- 地区別では、角田地区が40.5%と最も多く、前回調査の33.2%から7.3ポイント増加している。一方、東根地区が微増のほかは周辺部の地区の割合が減少している。
- 家族構成別では、親子二世帯、親子孫三世帯の割合がそれぞれ46.0%、21.6%で多いが、前回調査と比較すると、親子二世帯が41.5%から4.5ポイント増加、親子孫三世帯が26.7%から5.1ポイント減少と回答者の割合からの傾向として核家族化の進展が伺われる。また、単身世帯は8.0%と前回調査より2.0ポイント増加し、一方、夫婦のみの世帯は17.4%と3.7ポイント低下している。
- 職業別では、会社員が31.6%で最も多く、前回調査の24.5%から7.1ポイント増加し、無職が32.0%から22.0%と10ポイント低下しており、若い現役世代の回答が増加したことによると考えられる。また、10代にも調査範囲が広がったことで学生が6.3%を占めた。一方、農林業3.4%、商工自営業2.7%と産業の担い手の回答が少ないが、前回調査と比べて各々3.0ポイント、1.6ポイント減少している。専業主婦（主夫）も前回の12.8%が本調査では8.9%と3.9ポイント減少していて、働く人が増加していることが伺われる。
- 居住歴別では、生後ずっと住んでいる人が40.2%、20年以上が33.7%と両者を合わせた7割強が本市の生活に慣れているものと考えられる。「生まれてからずっと」については、前回の52.4%に比べるとこの5年間で12.2ポイント減少し、20年以上については4.3ポイント増加している。2年未満、2年～5年、6年～10年、11年～20年未満の居住歴の浅い回答者の割合が前回よりそれぞれ増加しており、20年未満全体で14.4%から23.5%と9.1ポイント増加している。

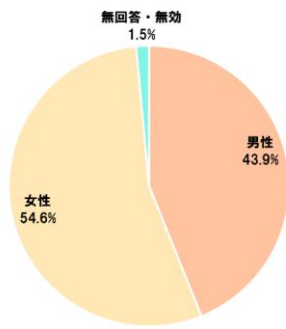


図 回答者の男女比

N=1230

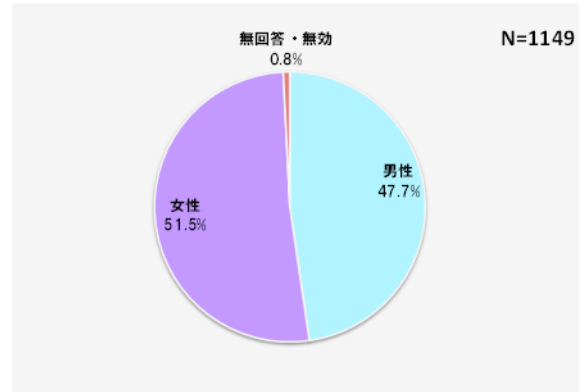


図 回答者の男女比 (前回調査 H27.3)

N=1149

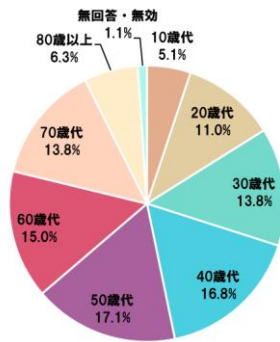


図 回答者の年代分布

N=1230

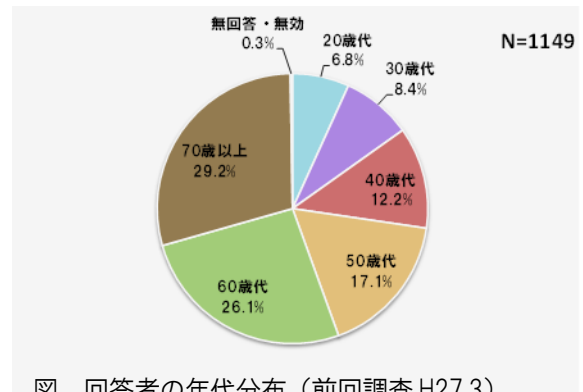


図 回答者の年代分布 (前回調査 H27.3)

N=1149

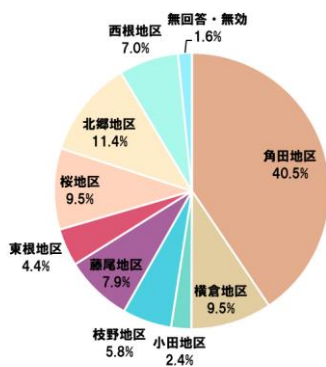


図 回答者の居住地区分布

N=1230

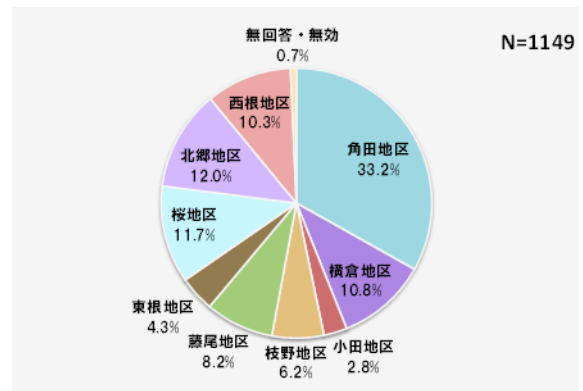


図 回答者の居住地区分布 (前回調査 H27.3)

N=1149

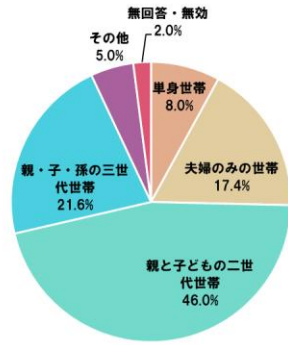


図 回答者の家族構成

N=1230

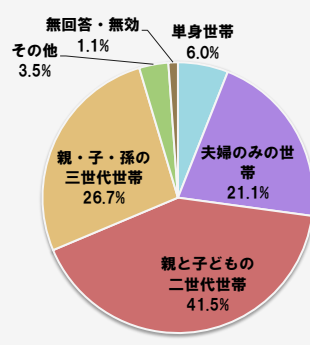


図 回答者の家族構成（前回調査 H27.3）

N=1149

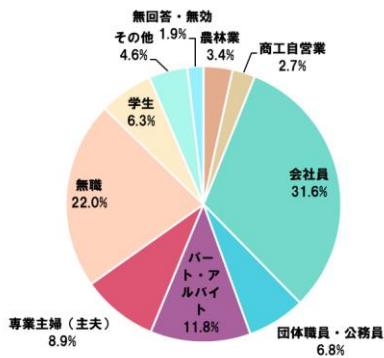


図 回答者の職業

N=1230

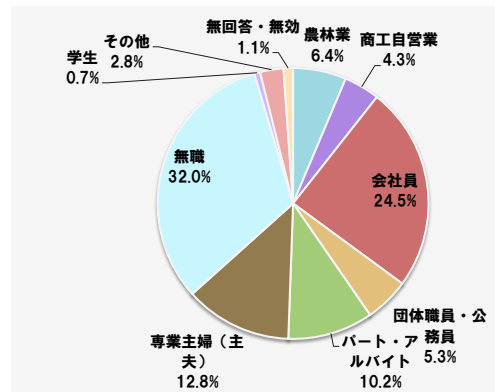


図 回答者の職業（前回調査 H27.3）

N=1149

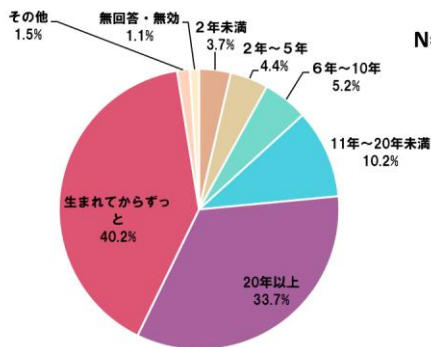


図 回答者の居住歴

N=1230

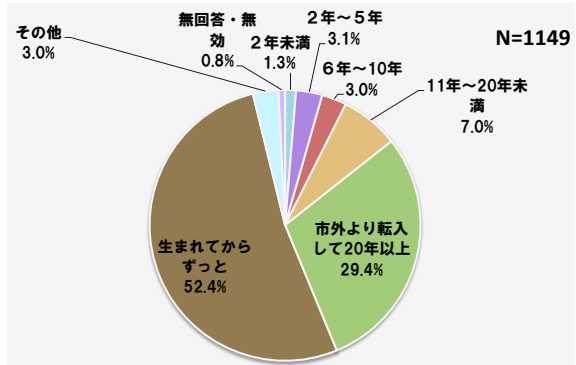


図 回答者の居住歴（前回調査 H27.3）

N=1149

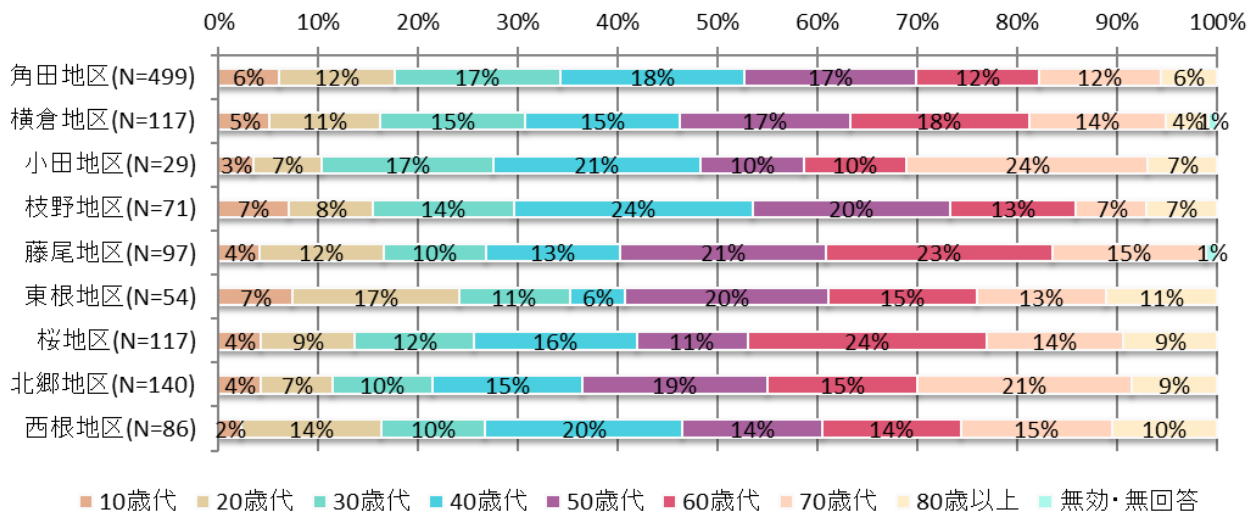


図 回答者の地区別・年代区分の構成

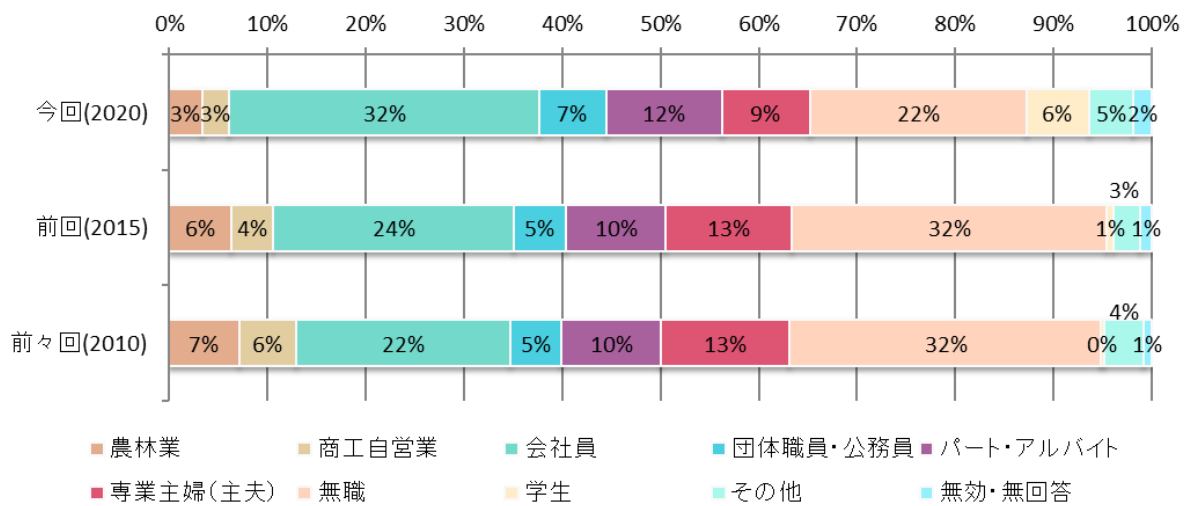


図 回答者の職業区分の変化

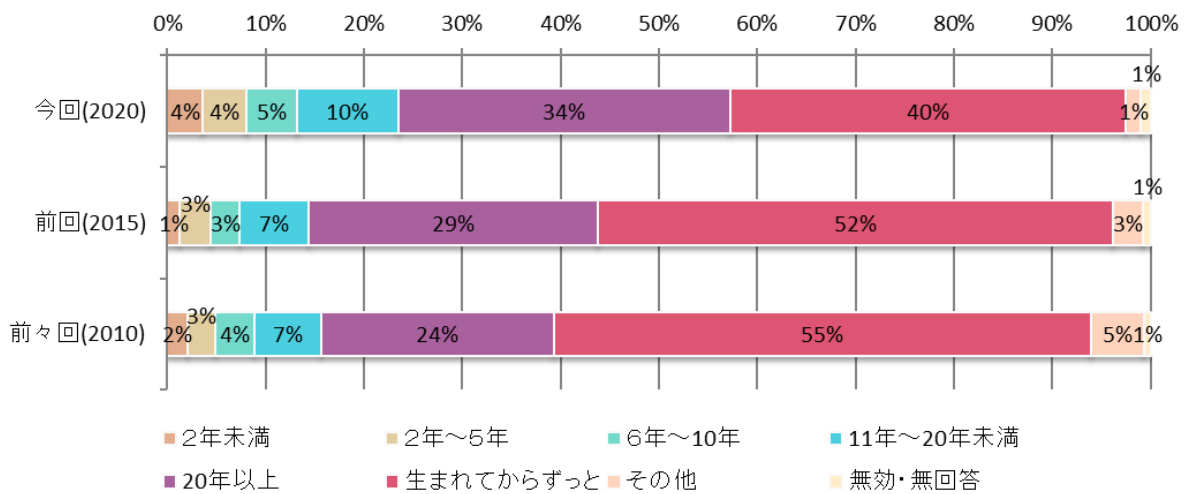


図 回答者の居住歴の変化

前回、前々回は以下による

前回 (2015) は、角田市第5次長期総合計画後期基本計画策定支援業務市民意識調査報告書平成27年3月

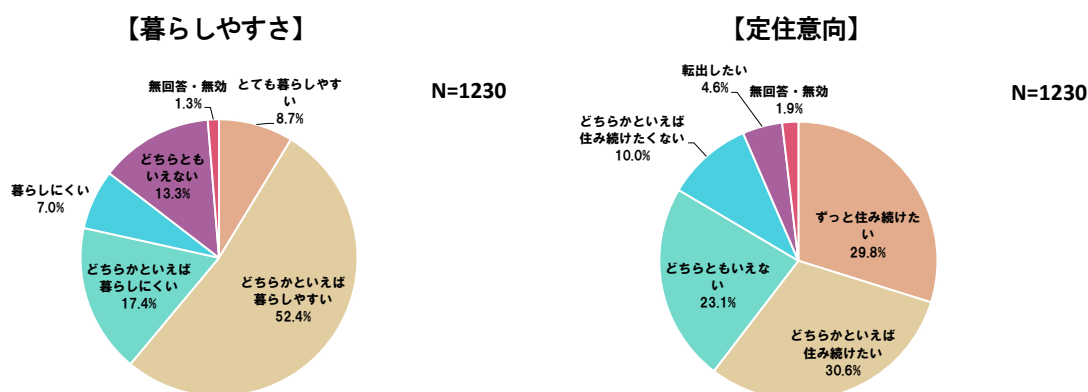
前々回 (2010) は、角田市第5次長期総合計画策定支援業務市民意識調査報告書平成21年3月

II 調査結果

1 市民アンケート調査結果のまとめ

■ 「暮らしやすい」が 61.1%、「住みたい」が 60.4%

本市の暮らしやすさについては「暮らしやすい」（「とても暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」の合計）が 61.1%、定住意向については「住みたい」（「ずっと住みたい」と「どちらかといえば住みたい」の合計）が 60.4%となっている。



■重点プロジェクトの総合評価をみると、

施策の効果は-18.65 ポイント、今後の重要度は 59.62 ポイント

目標とする都市像の実現に向けて戦略的に進めてきた3つの重点プロジェクトについての「施策の効果」と「今後の重要度」の評価結果は、以下のとおりである。

効果の平均点数は、-18.65 ポイントとなっている。プロジェクト別にみると、「交流人口 100 万人都市への挑戦」が最も高い。

重要度の平均点数は 59.62 ポイントとなっている。プロジェクト別にみると、「定住人口 3 万人の確保」が最も高い。

優先課題となる項目については、「戦略的産業振興」の重要度が高く、効果が低い。

■54 の主要施策に対する全体の総合評価をみると、

重要度は 59.31 ポイントに対し、満足度は-4.45 ポイントと満足度が低い

現行の長期総合計画に掲げる施策分野別の「満足度」と「重要度」の集計結果は、以下のとおりである。

満足度が低く重要度の高い優先課題指標群「B」には、「生活安全分野」の公共交通システム、防災体制の整備及び道路整備等、社会基盤整備関係があげられている。また、「健康・福祉分野」の地域医療体制の充実、「産業分野」の雇用の確保や企業立地の振興があげられている。

このうち、満足度が最も低いのは「公共交通システムの充実」で、次に「災害に強い防災体制の整備」、「地域医療体制の充実」で、市民生活の喫緊の課題があげられている。

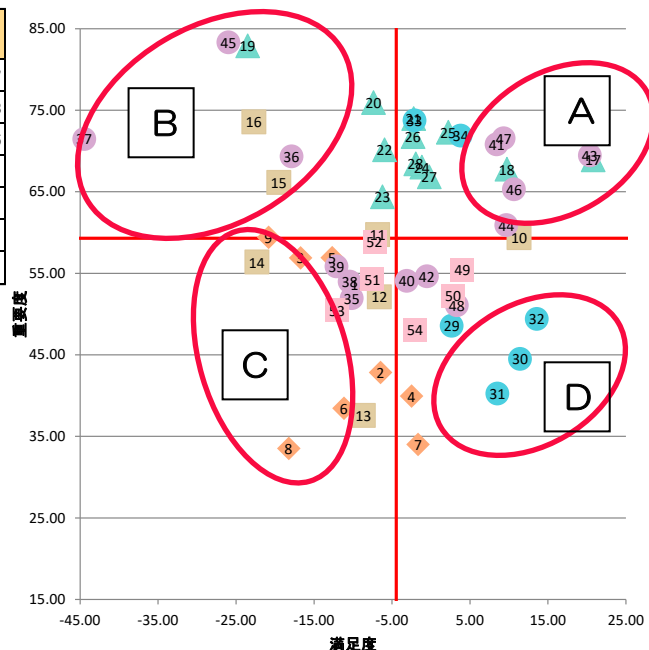
【主要施策の評価】

主要施策単位の満足度・重要度の平均値

施策の分類	満足度	重要度
人が集い賑わいのあるまちづくり	-11.11	46.17
調和のとれた産業のまちづくり	-10.76	57.83
みんなで支えあう健康で元気なまちづくり	-1.51	70.95
心豊かな個性を育むまちづくり	6.32	54.71
安全・安心で快適なまちづくり	-4.48	63.11
持続可能な行政経営	-3.64	53.21
平均※	-4.45	59.31

※平均は、54 指標の満足度、重要度の平均値である。

満足度・重要度評価分布図



- A 群：重要度高 × 満足度高** ⇒健康づくりの推進、資源リサイクルの推進、防犯体制の強化
上下水道の整備、疫病予防対策の推進、交通安全対策
- B 群：重要度高 × 満足度低** ⇒公共交通システムの充実、災害に強い防災体制の整備、地域医療体制の充実、安定した雇用の確保、企業立地の振興、交流情報の発信
- C 群：重要度低 × 満足度低** ⇒商店街活性化の支援、街なか交流拠点の整備、地域観光資源のネットワーク化、体験・滞在型観光機能の整備充実、情報化社会への対応
- D 群：重要度低 × 満足度高** ⇒地域スポーツの振興と交流、歴史・文化資源の保存活用、芸術文化活動の推進

※下式により回答を点数化し分析した。なお、下式で計算した結果、点数が高ければ高いほど満足（重要）、低ければ低いほど不満（重要でない）という意見が多いと分析・整理される。

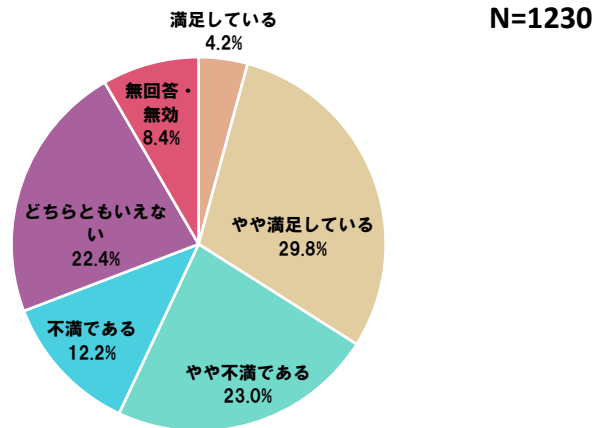
$$\text{点数} = \frac{(\text{「満足 (重要)」} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足 (やや重要)」} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満 (あまり重要でない)」} \times -1 \text{点} + \text{「不満 (重要でない)」} \times -2 \text{点}) \times 50}{(\text{「満足 (重要)」} \sim \text{「不満 (重要でない)」} \text{ 回答総数 (無回答除く)})}$$

※散布図中央に示す赤の横線、縦線は、重要度、満足度の各々54要素の平均値を表している。したがって、各要素の分布はこの平均値による4つの範囲により、重要度、満足度の傾向を判断している。

■行政全体に対する満足度は満足が 34.0%、不満足が 35.2%

行政全体に対する満足度は、満足（「満足している」と「やや満足している」の合計）が 34.0%、不満足（「不満である」と「やや不満である」の合計）が 35.2%となっている。

【行政全体に対する満足度】



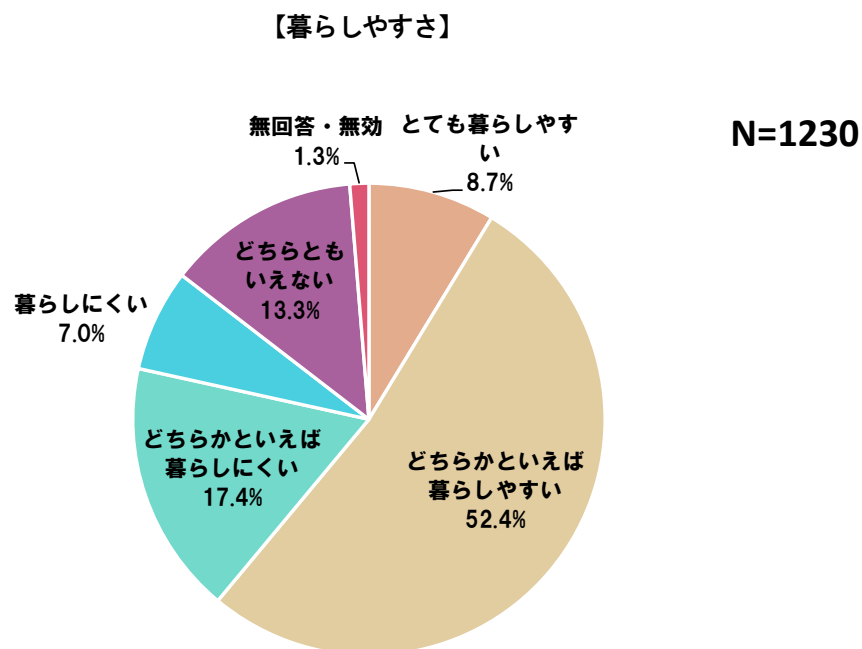
2 角田市での暮らしについて

○暮らしやすさや定住意向は、全体的に「暮らしやすい」、「住み続けたい」との回答が多い。

(1) 暮らしやすさ

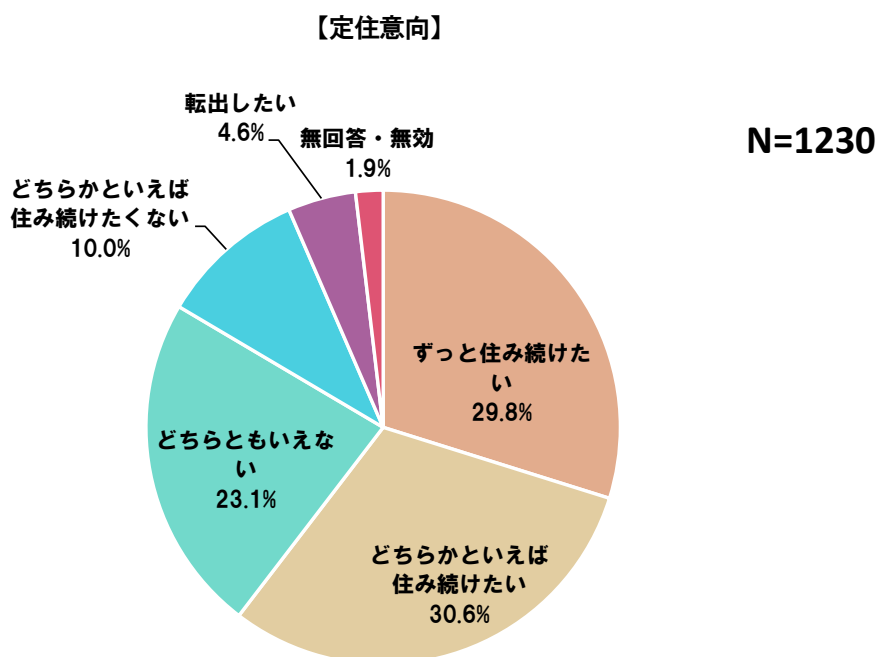
暮らしやすさは、61.1%が『暮らしやすい』（「とても暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」の合計）と回答している。

また、「どちらかといえば暮らしにくい」、「暮らしにくい」の合計は24.4%となっている。



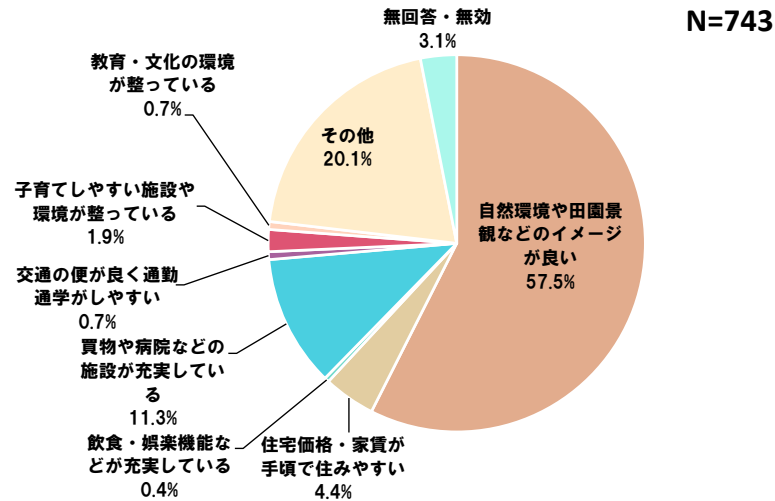
(2) 定住意向

今後の定住意向については、「ずっと住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計は、60.4%となっている。一方、「どちらかといえば住み続けたくない」、「転出したい」の合計は14.6%となっている。



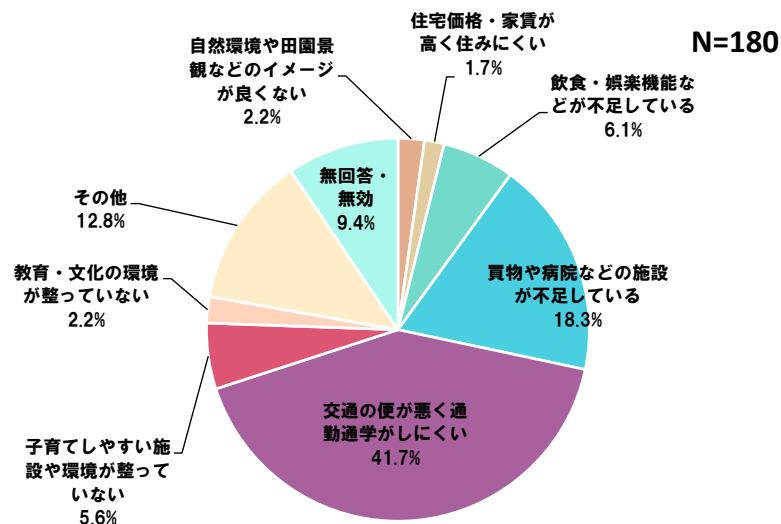
■住み続けたい理由

住み続けたい理由については、「自然環境や田園景観などのイメージが良い」が6割弱で最も高く、次いで「その他」が20.1%、「買物や病院などの施設が充実している」が11.3%と続いている。また、「その他」の理由として「持家があるから」が多く挙げられた。



■住み続けたくない理由

住み続けたくない理由については、「交通の便が悪く通勤通学がしにくい」が4割以上で最も高く、次いで「買物や病院などの施設が不足している」が18.3%、「その他」が12.8%と続いている。



3 角田市の取り組みについて

- 3つの重点プロジェクトのうち、最も効果があったものは「交流人口 100 万人都市への挑戦」で、最も重要度が高いものは「定住人口3万人の確保」である。
- 行政サービスの満足度が低く重要度の高い優先課題指標群には、「生活安全分野」の公共交通システム、防災体制の整備及び道路整備等、社会基盤整備関係があげられている。また、「健康・福祉分野」の地域医療体制の充実、「産業分野」の雇用の確保や企業立地の振興があげられている。
- 行政全体に対する満足度は、「不満である」が「満足している」を上回っている。

(1) 3つの重点プロジェクトの効果・重要度

目標とする都市像の実現に向けて戦略的に進めてきた3つの重点プロジェクトについて、「施策の効果」と「今後の重要度」の回答を次のとおり点数化して集計している。

施策評価は、それぞれのプロジェクトに対する「施策の効果」と「今後の重要度」の回答を点数化して表しており、効果・重要度の回答について、それぞれ「効果があった」・「重要である」を2点、「やや効果があった」・「やや重要である」を1点、「あまり効果がなかった」・「あまり重要でない」を-1点、「効果がなかった」・「重要でない」を-2点、「わからない」を0点として集計した。

$$\text{点数} = \frac{(\text{効果あり(重要)}) \times 2 \text{点} + (\text{やや効果あり(やや重要)}) \times 1 \text{点} + (\text{効果低(重要性低)}) \times -1 \text{点} + (\text{効果なし(重要でない)}) \times -2 \text{点}}{(\text{効果あり(重要)} \sim \text{効果なし(重要でない)}) \text{回答総数(無回答除く)}} \times 50$$

効果の平均点数は-18.65ポイントとなっており、プロジェクト別にみると、「交流人口 100 万人都市への挑戦」の施策の効果が最も高い。

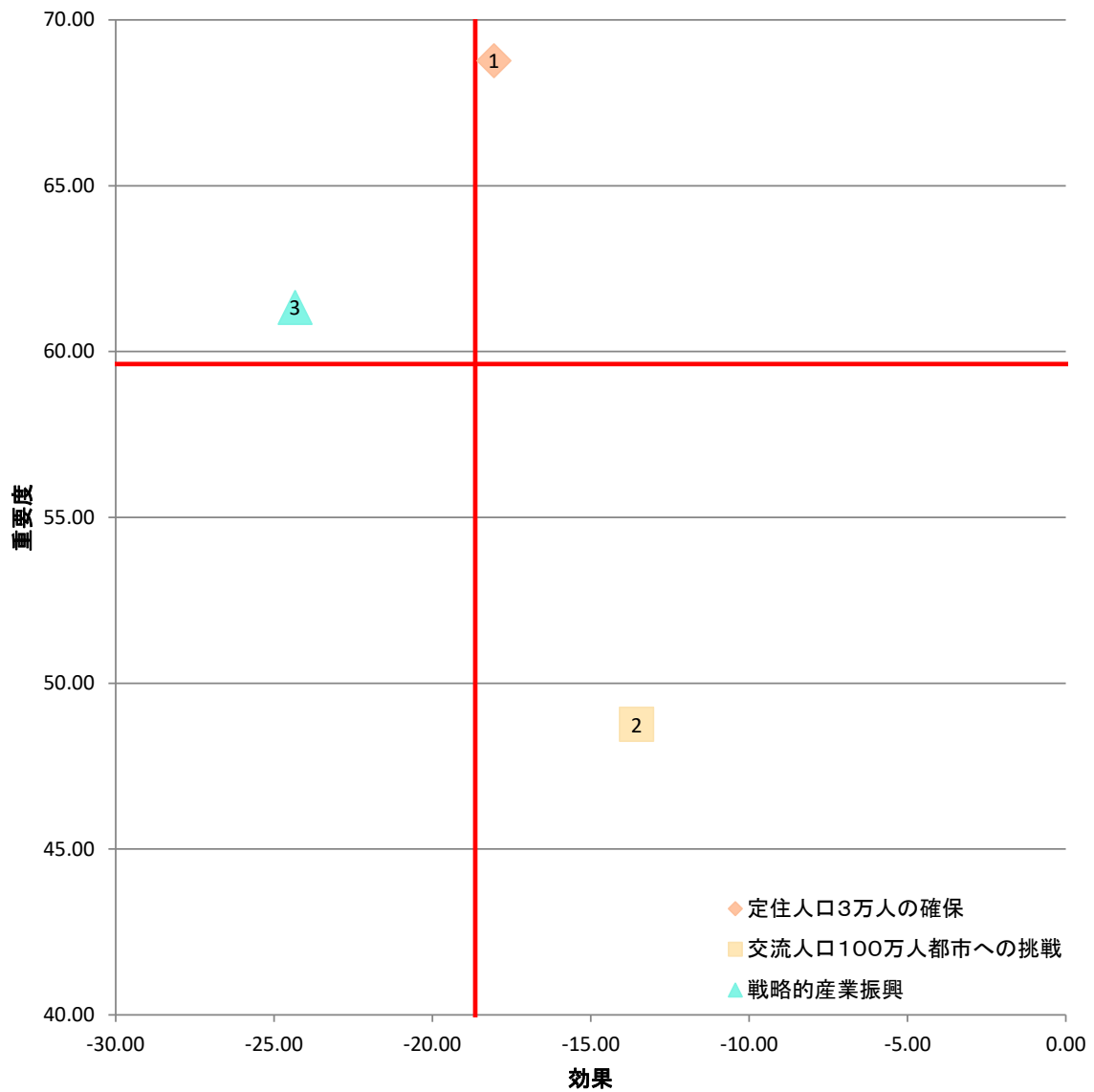
重要度の平均点数は、59.62ポイントとなっており、プロジェクト別にみると、「定住人口3万人の確保」が最も高い。

優先課題となる項目については、「戦略的産業振興」の重要度が高く、効果が低い。

【「現在の満足度」と「今後の重要度」】

項目	効果	重要度
定住人口3万人の確保	-18.06	68.77
交流人口100万人都市への挑戦	-13.55	48.76
戦略的産業振興	-24.33	61.33
平均	-18.65	59.62

【効果・重要度からみた重点プロジェクトの位置づけ】



※散布図中央に示す赤の横線、縦線は、重要度、満足度の各々3要素の平均値を表している。

(2) 行政サービスの満足度・重要度

現行の第5次長期総合計画の後期基本計画に基づき進めている行政サービスについて、「満足度」と「重要度」を、54施策ごとに5段階評価で評価する。

施策評価は、54施策に対する「現在の満足度」と「今後の重要度」の回答を点数化して表しており、満足度・重要度の回答について、それぞれ「満足」・「重要である」を2点、「やや満足」・「やや重要である」を1点、「やや不満」・「あまり重要でない」を-1点、「不満」・「重要でない」を-2点、「わからない」を0点として集計した。

$$\text{点数} = \frac{(\text{満足(重要)}) \times 2 \text{点} + \text{やや満足(やや重要)} \times 1 \text{点} + \text{やや不満(あまり重要でない)} \times -1 \text{点} + \text{不満(重要でない)} \times -2 \text{点} \times 50}{(\text{満足(重要)} \sim \text{不満(重要でない)}) \text{回答総数(無回答除く)}}$$

満足度の平均点数は-4.45ポイントとなっており、施策の分類別には、「心豊かな個性を育むまちづくり」の満足度が群を抜いて高く、「みんなで支えあう健康で元気なまちづくり」、「持続可能な行政経営」の満足度が比較的高い。

一方、「人が集い賑わいのあるまちづくり」に対する満足度は-11.11ポイントと最も低い。

重要度は、平均が59.31ポイントとなっている。施策の分類別にみると、高い値となっているのは「みんなで支えあう健康で元気なまちづくり」や「安全・安心で快適なまちづくり」、「調和のとれた産業のまちづくり」である。一方、重要度が比較的低いのは「人が集い賑わいのあるまちづくり」、「持続可能な行政経営」である。

【「現在の満足度」と「今後の重要度」】

施策の分類	満足度	重要度
人が集い賑わいのあるまちづくり	-11.11	46.17
調和のとれた産業のまちづくり	-10.76	57.83
みんなで支えあう健康で元気なまちづくり	-1.51	70.95
心豊かな個性を育むまちづくり	6.32	54.71
安全・安心で快適なまちづくり	-4.48	63.11
持続可能な行政経営	-3.64	53.21
平均※	-4.45	59.31

※平均は、54指標の満足度、重要度の平均値である。

【54施策に対する現在の満足度が低い10施策】

順位	施策の分類	満足度	重要度
1	公共交通システムの充実	-44.45	71.47
2	災害に強い防災体制の整備	-25.97	83.32
3	地域医療体制の充実	-23.51	82.89
4	安定した雇用の確保	-22.70	73.57
5	商店街活性化の支援	-22.31	56.36
6	交流情報の発信	-20.83	59.41
7	企業立地の振興	-19.50	66.14
8	街なか交流拠点の整備	-18.25	33.52
9	機能的な道路網の整備	-17.88	69.34
10	地域観光資源のネットワーク化	-16.71	56.90

【54施策に対する現在の満足度が高い10施策】

順位	施策の分類	満足度	重要度
1	健康づくりの推進	20.79	68.92
2	資源リサイクルの推進	20.38	69.44
3	地域スポーツの振興と交流	13.59	49.40
4	歴史・文化資源の保存活用	11.44	44.48
5	安全・安心な農畜産物の生産	11.31	59.37
6	交通安全対策	10.65	65.30
7	疾病予防対策の推進	9.74	67.78
8	環境衛生の向上	9.68	60.90
9	防犯体制の強化	9.34	71.54
10	芸術文化活動の推進	8.52	40.24

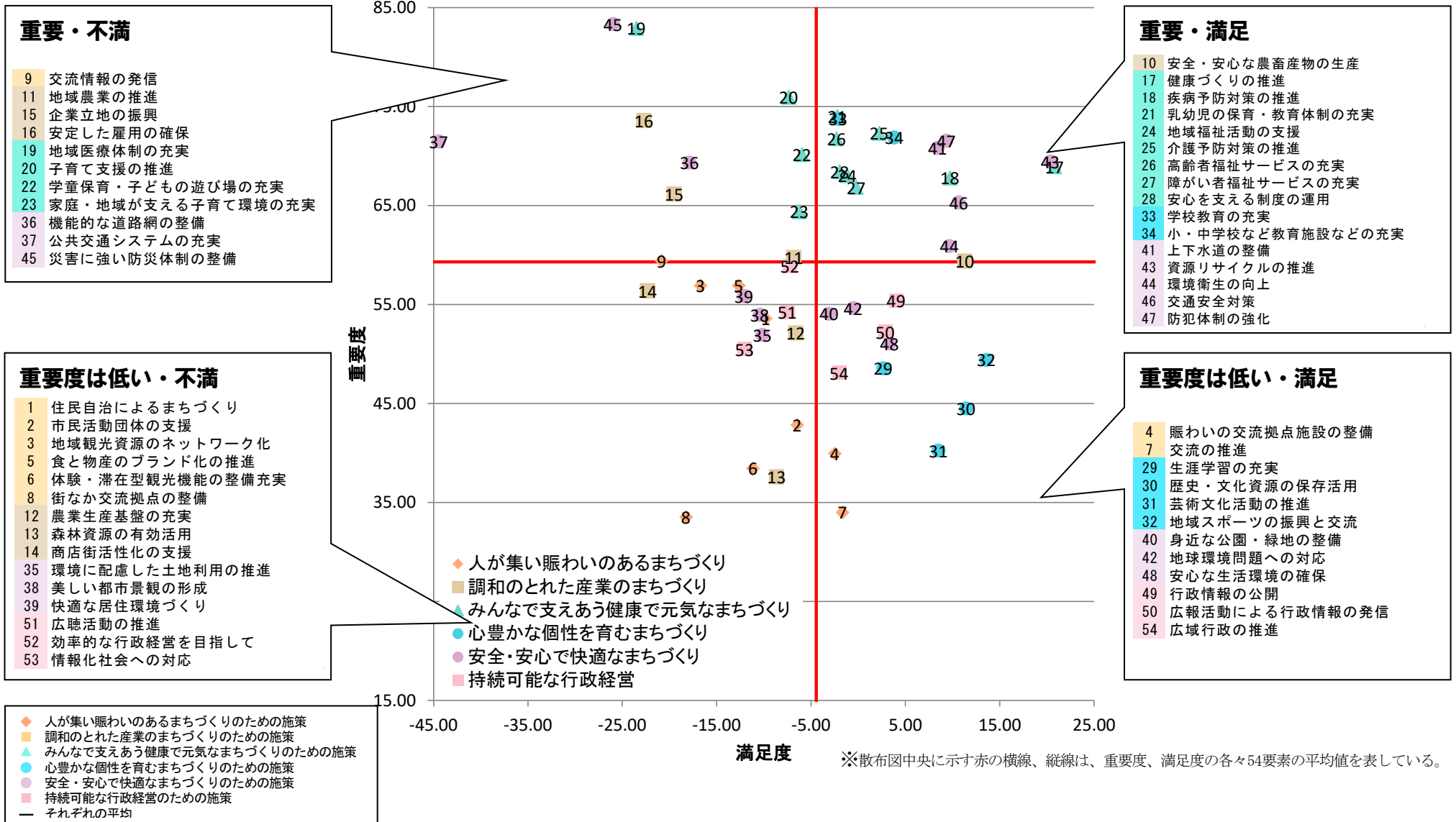
【54施策に対する今後の重要度が低い10施策】

順位	施策の分類	満足度	重要度
1	街なか交流拠点の整備	-18.25	33.52
2	交流の推進	-1.66	34.00
3	森林資源の有効活用	-8.65	37.56
4	体験・滞在型観光機能の整備充実	-11.15	38.45
5	賑わいの交流拠点施設の整備	-2.49	39.93
6	芸術文化活動の推進	8.52	40.24
7	市民活動団体の支援	-6.47	42.83
8	歴史・文化資源の保存活用	11.44	44.48
9	広域行政の推進	-2.01	48.08
10	生涯学習の充実	2.66	48.54

【54施策に対する今後の重要度が高い10施策】

順位	施策の分類	満足度	重要度
1	災害に強い防災体制の整備	-25.97	83.32
2	地域医療体制の充実	-23.51	82.89
3	子育て支援の推進	-7.37	75.94
4	乳幼児の保育・教育体制の充実	-2.22	73.98
5	学校教育の充実	-2.10	73.75
6	安定した雇用の確保	-22.70	73.57
7	介護予防対策の推進	2.22	72.31
8	小・中学校など教育施設などの充実	3.82	71.87
9	高齢者福祉サービスの充実	-2.30	71.75
10	防犯体制の強化	9.34	71.54

【満足度・重要度からみた各主要施策の位置づけ】

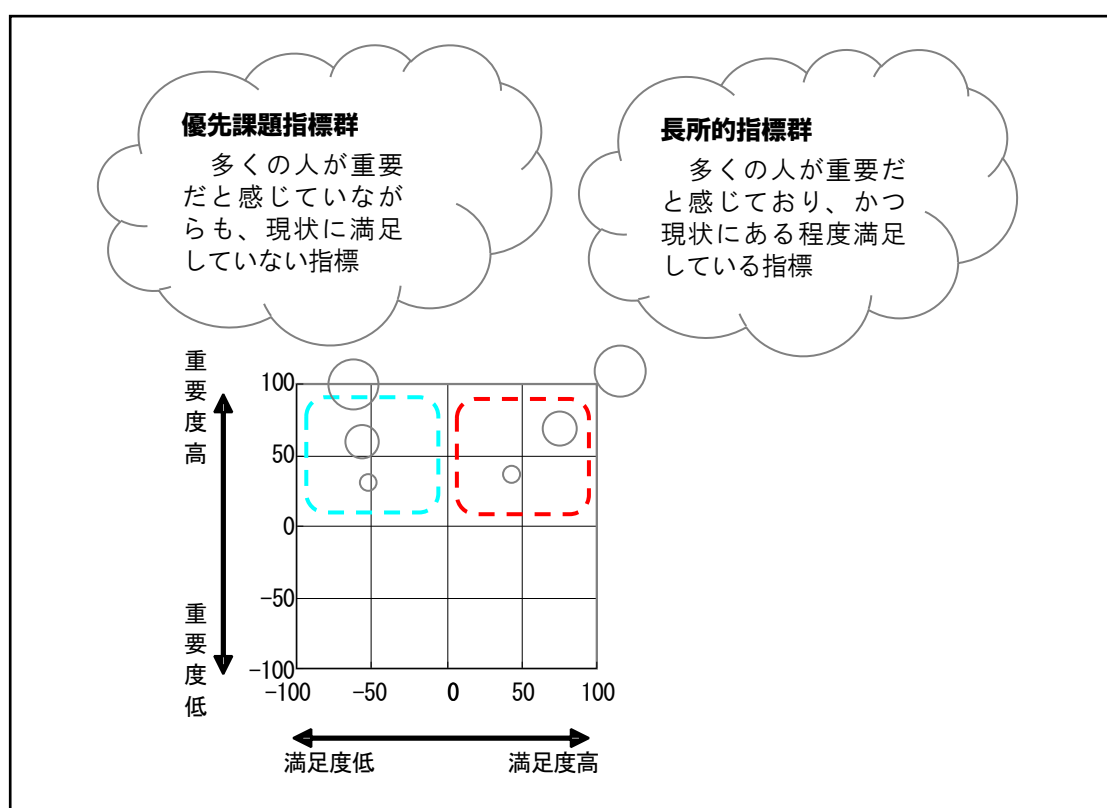


(3) 施策分野別の満足度・重要度

各主要施策に対する満足度と重要度を点数化したものを、全体の最小値～最大値の幅で整理した。

下図に示すとおり、満足度と重要度の平均値をもとに、各主要施策の位置づけを整理した時に、市民の満足度が高く重要度も高い指標は『長所的指標群』と位置づけられ、今後も維持していくことが重要である。

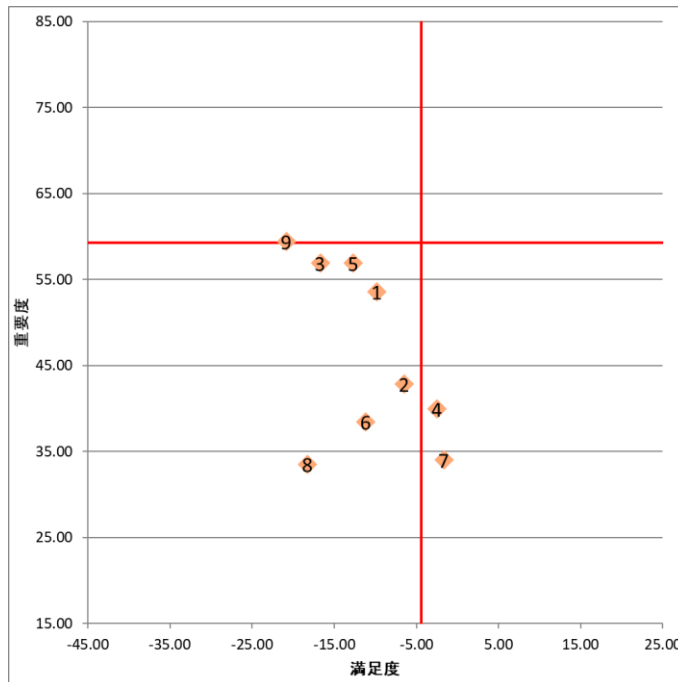
また、市民の満足度が低く重要度が高い指標は『優先課題指標群』と位置づけられ、これらの分類に該当する指標にどれだけ取り組み・実施できるかが、今後のまちづくりの中で特に重要となる。



i 人が集い賑わいのあるまちづくり

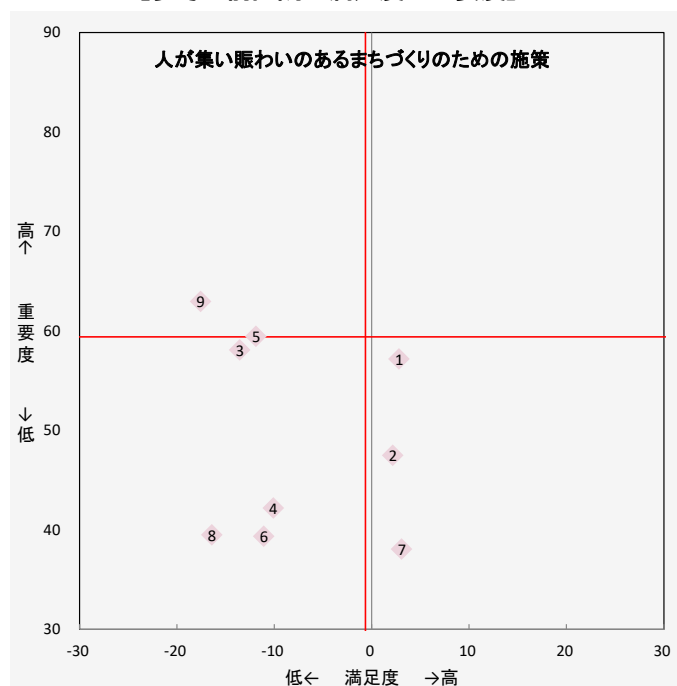
人が集い賑わいのあるまちづくりのための施策についての重要度は、全体的に低い。その中で、「交流の推進」や「賑わいの交流拠点施設の整備」、「市民活動団体の支援」の満足度は高いものの、「交流情報の発信」、「街なか交流拠点の整備」の満足度は低い。また、「交流情報の発信」の重要度が高く、優先課題指標群に入る。

【人が集い賑わいのあるまちづくりの満足度・重要度】



- 1 住民自治によるまちづくり
- 2 市民活動団体の支援
- 3 地域観光資源のネットワーク化
- 4 賑わいの交流拠点施設の整備
- 5 食と物産のブランド化の推進
- 6 体験・滞在型観光機能の整備充実
- 7 交流の推進
- 8 街なか交流拠点の整備
- 9 交流情報の発信

【参考：前回調査満足度・重要度】

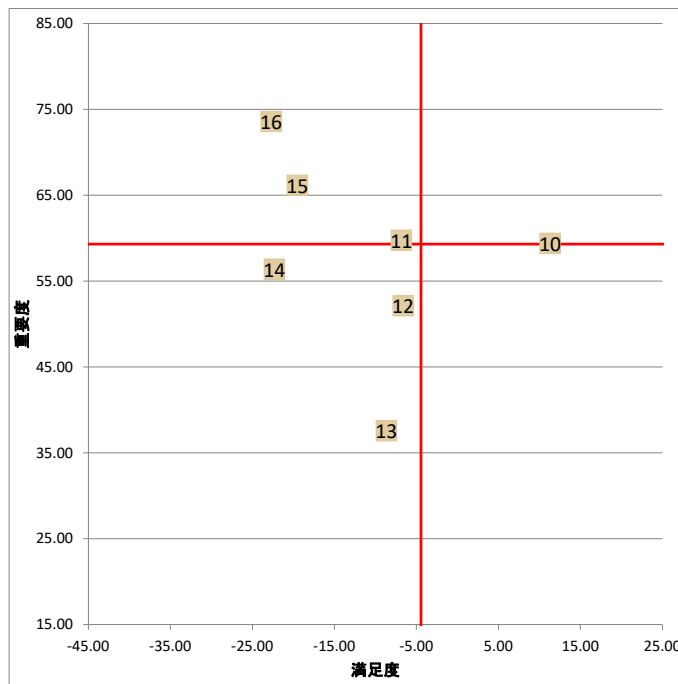


- 1 住民自治によるまちづくり
- 2 市民活動団体の支援
- 3 地域観光資源のネットワーク化
- 4 賑わいの交流拠点の整備
- 5 食と物産のブランド化の推進
- 6 体験・滞在型観光機能の整備充実
- 7 交流の推進
- 8 街なか交流拠点の整備
- 9 交流情報の発信

ii 調和のとれた産業のまちづくり

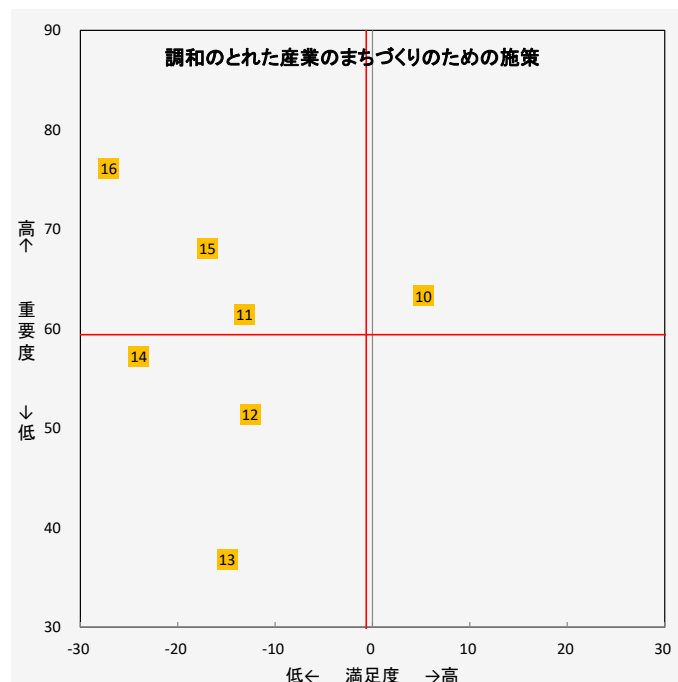
調和のとれた産業のまちづくりのための施策については、「安全・安心な農畜産物の生産」の満足度は高いものの、「安定した雇用の確保」、「企業立地の振興」の満足度は低く優先課題指標群となっている。

【調和のとれた産業のまちづくりの満足度・重要度】



- 10 安全・安心な農畜産物の生産
- 11 地域農業の推進
- 12 農業生産基盤の充実
- 13 森林資源の有効活用
- 14 商店街活性化の支援
- 15 企業立地の振興
- 16 安定した雇用の確保

【参考：前回調査満足度・重要度】

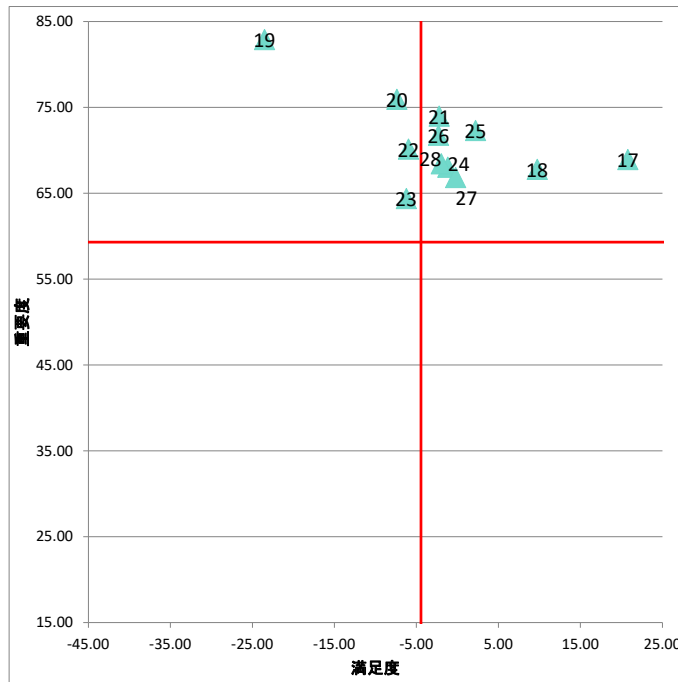


- 10 安全・安心な農畜産物の生産
- 11 地域農業の推進
- 12 農業生産基盤の充実
- 13 森林資源の有効活用
- 14 商店街活性化の支援
- 15 企業立地の振興
- 16 安定した雇用の確保

iii みんなで支えあう健康で元気なまちづくり

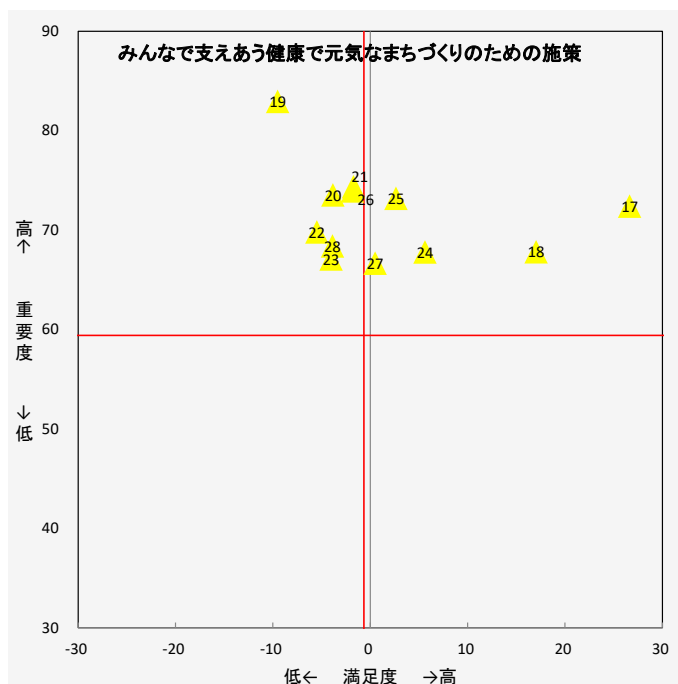
みんなで支えあう健康で元気なまちづくりのための施策についての重要度は、全体的に高い。その中で、「健康づくりの推進」や「疫病予防対策の推進」の満足度は高いものの、「地域医療体制の充実」、「子育て支援の推進」、「学童保育・子どもの遊び場の充実」、「家庭・地域が支える子育て環境の充実」の満足度は低く優先課題指標群となっている。

【みんなで支えあう健康で元気なまちづくりの満足度・重要度】



- 17 健康づくりの推進
- 18 疾病予防対策の推進
- 19 地域医療体制の充実
- 20 子育て支援の推進
- 21 乳幼児の保育・教育体制の充実
- 22 学童保育・子どもの遊び場の充実
- 23 家庭・地域が支える子育て環境の充実
- 24 地域福祉活動の支援
- 25 介護予防対策の推進
- 26 高齢者福祉サービスの充実
- 27 障がい者福祉サービスの充実
- 28 安心を支える制度の運用

【参考：前回調査満足度・重要度】

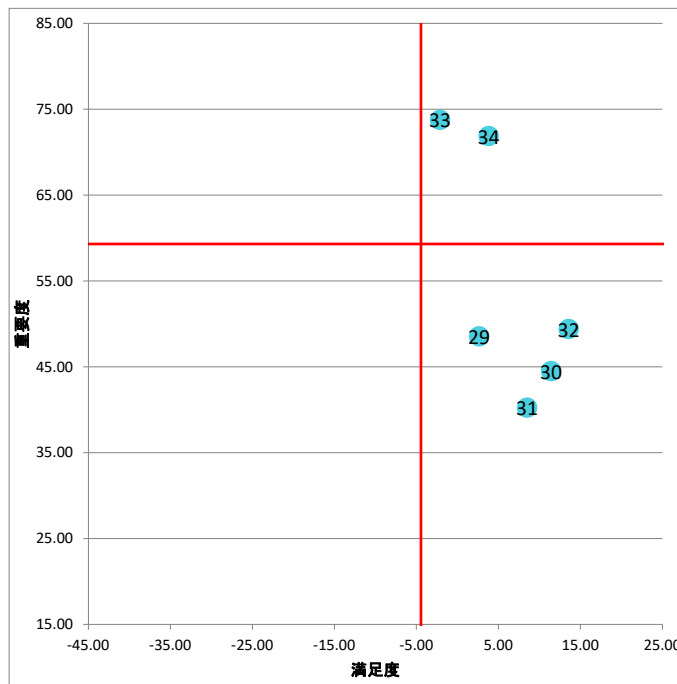


- 17 健康づくりの推進
- 18 疾病予防対策の推進
- 19 地域医療体制の充実
- 20 子育て支援の推進
- 21 乳幼児の保育・教育体制の充実
- 22 学童保育・子どもの遊び場の充実
- 23 家庭・地域が支える子育て環境の充実
- 24 地域福祉活動の支援
- 25 介護予防対策の推進
- 26 高齢者福祉サービスの充実
- 27 障がい者福祉サービスの充実
- 28 安心を支える制度の運用

iv 心豊かな個性を育むまちづくり

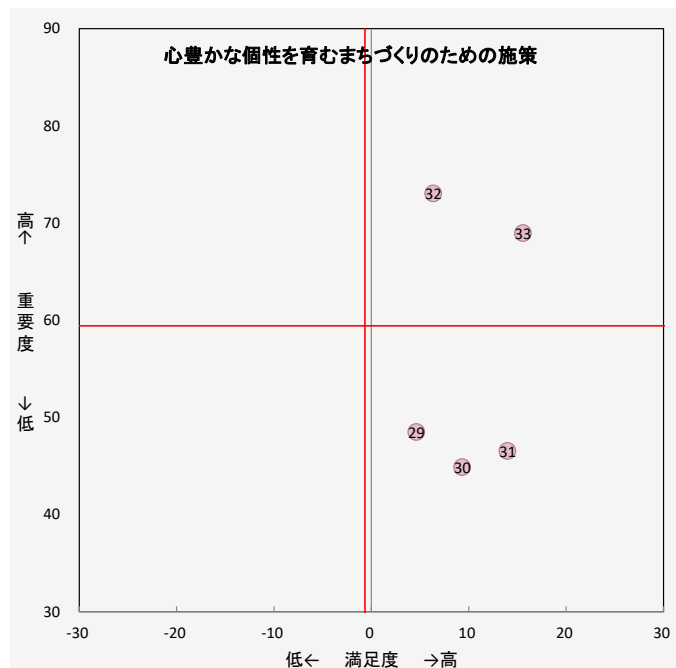
心豊かな個性を育むまちづくりのための施策についての重要度は、学校教育に関するものが高い。一方、満足度は全体的に高くなっており、「地域スポーツの振興と交流」や「歴史・文化資源の保存活用」が特に高くなっている。

【心豊かな個性を育むまちづくりの満足度・重要度】



- 29 生涯学習の充実
- 30 歴史・文化資源の保存活用
- 31 芸術文化活動の推進
- 32 地域スポーツの振興と交流
- 33 学校教育の充実
- 34 小・中学校など教育施設などの充実

【参考：前回調査満足度・重要度】

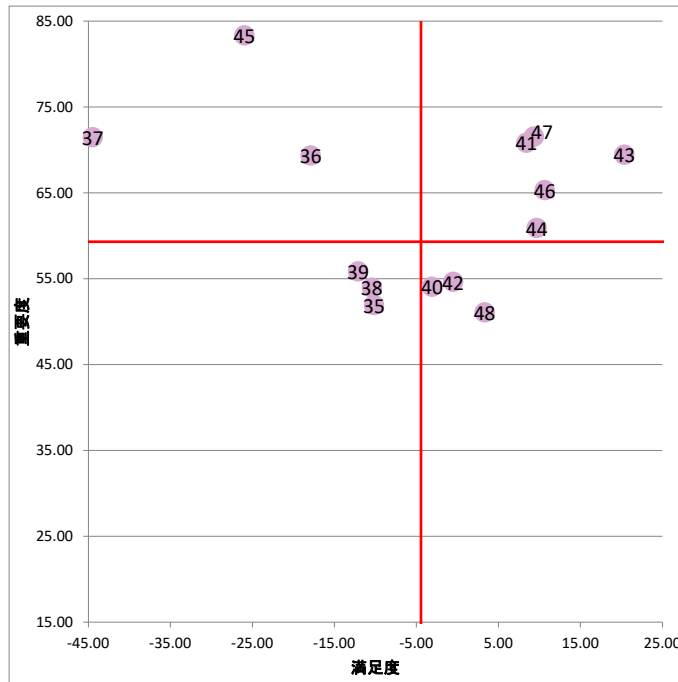


- 29 生涯学習の充実
- 30 歴史・文化資源の保存活用
- 31 地域スポーツの振興と交流
- 32 学校教育の充実
- 33 小・中学校など教育施設等の充実

v 安全・安心で快適なまちづくり

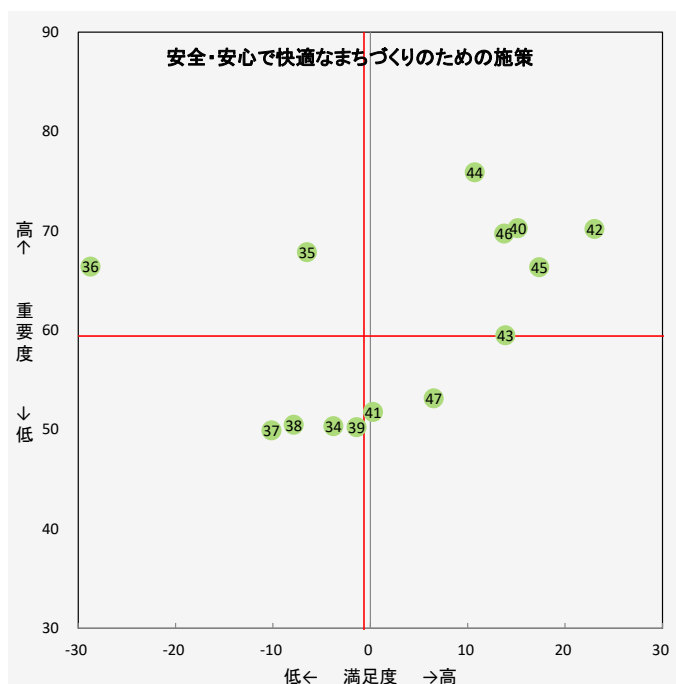
安全・安心で快適なまちづくりのための施策についての重要度は、全体的に高い。その中で、「資源リサイクルの推進」や「交通安全対策」の満足度は高いものの、「公共交通システムの充実」、「災害に強い防災体制の整備」、「機能的な道路網の整備」の満足度は低く、優先課題指標群となっている。

【安全・安心で快適なまちづくりの満足度・重要度】



- 35 環境に配慮した土地利用の推進
- 36 機能的な道路網の整備
- 37 公共交通システムの充実
- 38 美しい都市景観の形成
- 39 快適な居住環境づくり
- 40 身近な公園・緑地の整備
- 41 上下水道の整備
- 42 地球環境問題への対応
- 43 資源リサイクルの推進
- 44 環境衛生の向上
- 45 災害に強い防災体制の整備
- 46 交通安全対策
- 47 防犯体制の強化
- 48 安心な生活環境の確保

【参考：前回調査満足度・重要度】

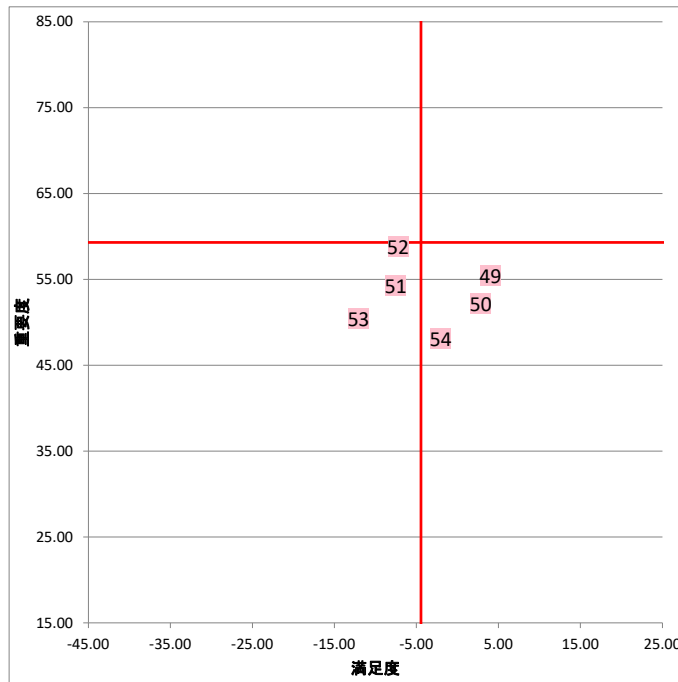


- 34 環境に配慮した土地利用の推進
- 35 機能的な道路網の整備
- 36 公共交通システムの充実
- 37 美しい都市景観の形成
- 38 快適な居住環境づくり
- 39 身近な公園・緑地の整備
- 40 上下水道の整備
- 41 地球環境問題への対応
- 42 資源リサイクルの推進
- 43 環境衛生の向上
- 44 災害に強い防災体制の整備
- 45 交通安全対策
- 46 防犯体制の強化
- 47 安心な生活環境の確保

vi 持続可能な行政経営のためのまちづくり

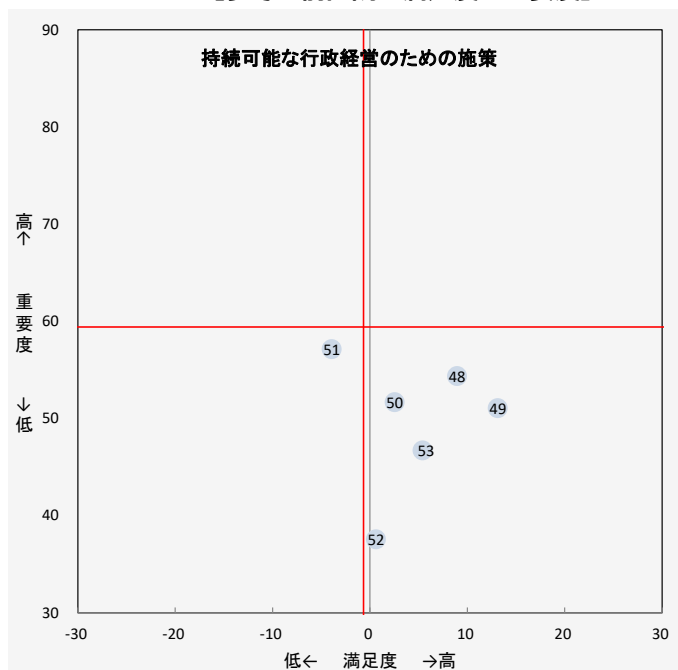
持続可能な行政経営のためのまちづくりのための施策についての重要度は、全体的に低く、満足度は平均から10ポイント前後に集まっている。

【持続可能な行政経営のためのまちづくりの満足度・重要度】



- 49 行政情報の公開
- 50 広報活動による行政情報の発信
- 51 広聴活動の推進
- 52 効率的な行政経営を目指して
- 53 情報化社会への対応
- 54 広域行政の推進

【参考：前回調査満足度・重要度】



- 48 行政情報の公開
- 49 広報活動による行政情報の発信
- 50 広聴活動の推進
- 51 効率的な行政経営を目指して
- 52 情報化社会への対応
- 53 広域行政の推進

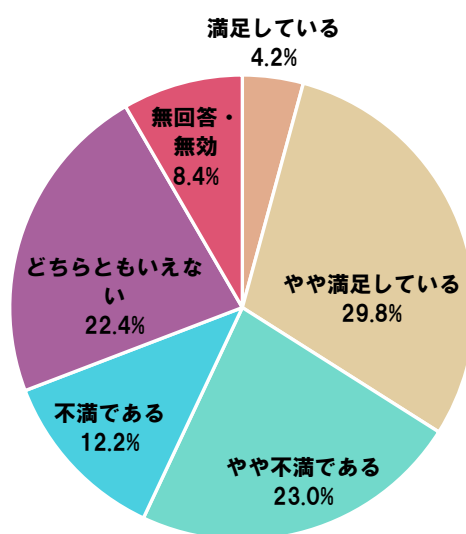
(4) 行政全体に対する満足度

行政全体に対する満足度については、「満足している」、「やや満足している」を合わせると、34.0%の人が満足していると回答している。

また、「やや不満である」、「不満である」の計は 35.2%となっており、「不満である」と感じている人が「満足している」と感じている人を上回っている。

【行政全体に対する満足度】

N=1230



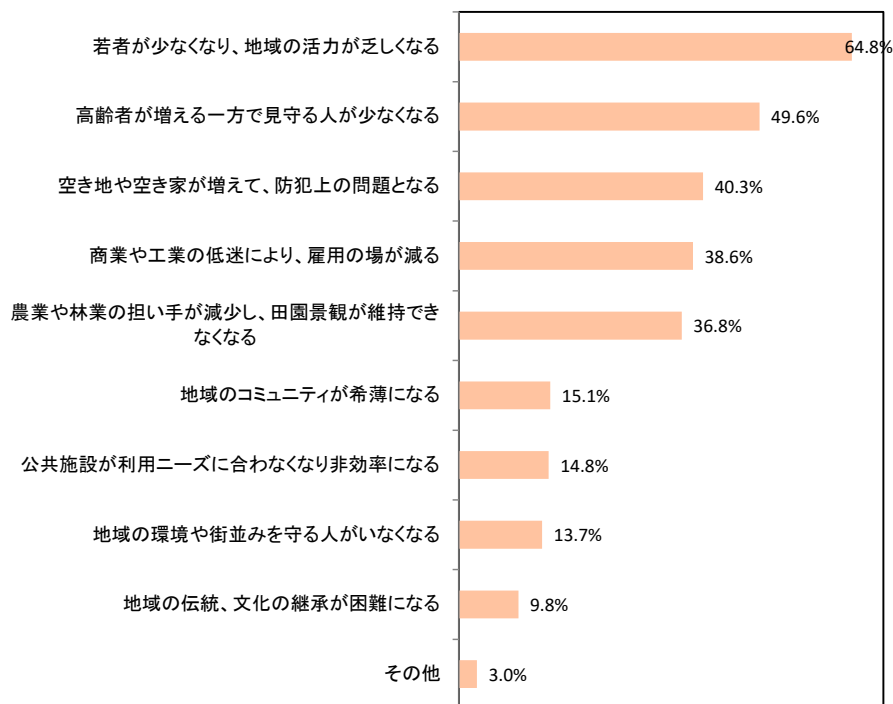
4 これからのまちづくりの課題と方向性について

- 「人口が減少した際の課題」については、「若者の減少・地域の活力の低下」及び「高齢者の独居問題」の回答数が多い。
- 「人口を減少させないための施策」については、「結婚や子育ての負担の軽減」及び「安定した雇用の確保」の回答数が多い。
- 「行政運営に係る市民参画」については、3割以上が「興味はあるが仕事や家事で時間がないので、参加が難しい」と回答している。
- 「角田市独自の地域資源」については、「JAXA角田宇宙センター」及び「道の駅かくた」の回答数が多い。
- 「角田の5つの“め”の知名度」は約5割で、前回より低下している。
- 「これから重点をおくべき施策」については、「雇用や子育てサポートの充実」、「健康福祉施設の充実」、「防災対策の充実」に対する回答が多い。

(1) 人口が減少した際の課題

人口が減少した際の課題については、「若者が少なくなり、地域の活力が乏しくなる」が64.8%と、最も高い。次いで「高齢者が増える一方で見守る人が少なくなる」が49.6%、「空き地や空き家が増えて、防犯上の問題となる」が40.3%となっている。

【人口が減少した際の課題】



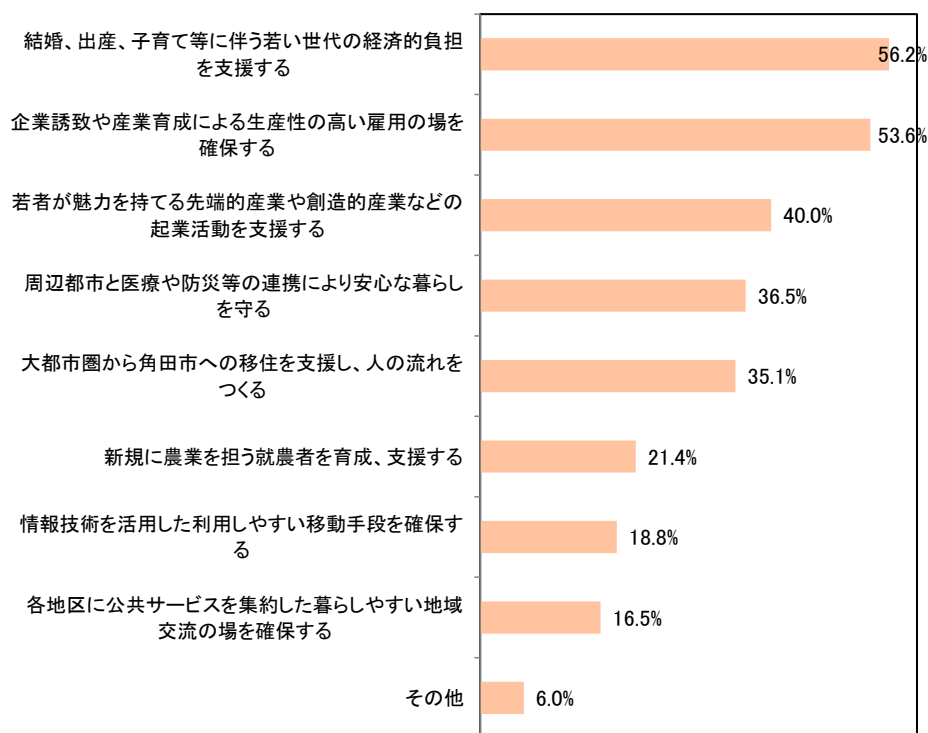
N=1202

注) 複数回答(3個選択式)、得票率は下式で算出
 (得票率) = (有効回答数) ÷ (有効回答者数) × 100

(2) 人口を減少させないための施策

人口を減少させないための施策については、「結婚、出産、子育て等に伴う若い世代の経済的負担を支援する」が 56.2%と、最も高い。次いで「企業誘致や産業育成による生産性の高い雇用の場を確保する」が 53.6%、「若者が魅力を持てる先端的産業や創造的産業などの起業活動を支援する」が 40.0%となっている。

【人口を減少させないための施策】



N=1203

注) 複数回答 (3個選択式)

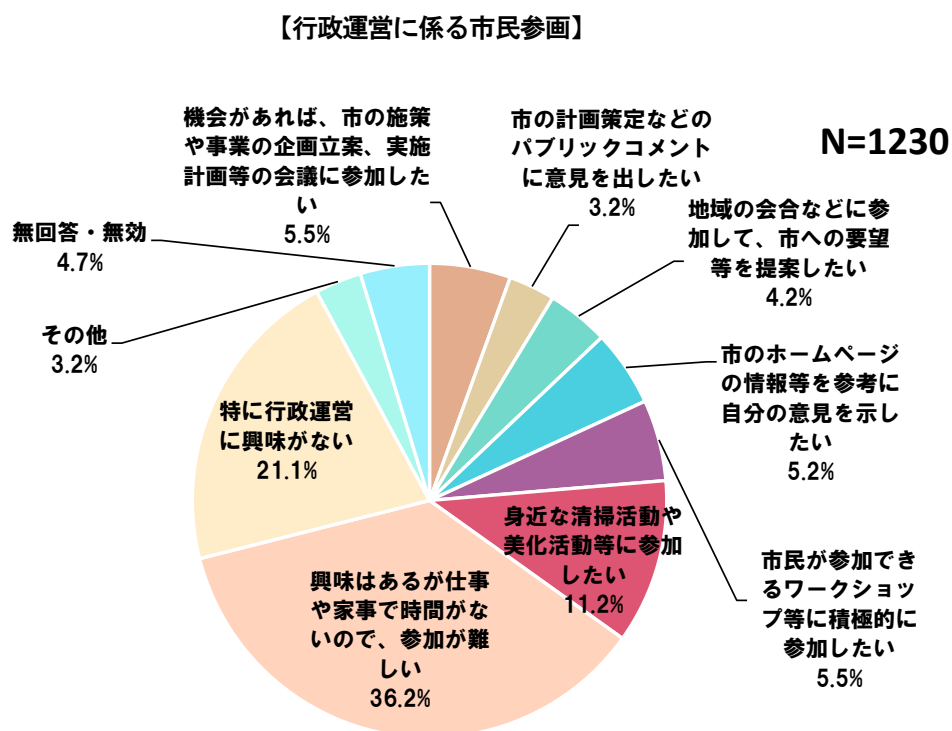
得票率は下式で算出

$$(\text{得票率}) = (\text{有効回答数}) \div (\text{有効回答者数}) \times 100$$

(3) 行政運営に係る市民参画

行政運営に係る市民参画については、「興味はあるが仕事や家事で時間がないので、参加が難しい」が36.2%で最も高く、次いで「特に行政運営に興味がない」が21.1%となっている。

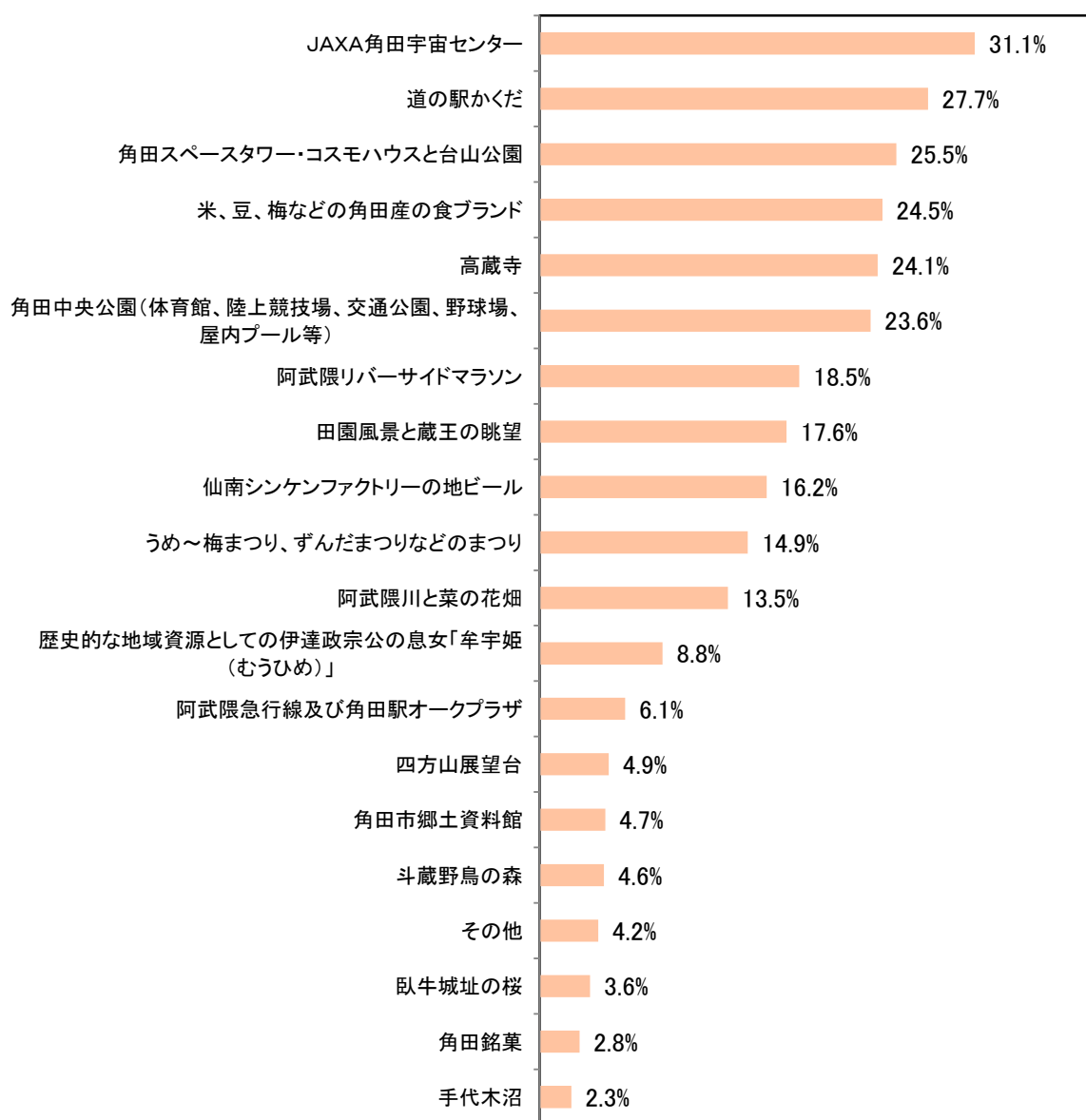
また、参加したいという回答の中では、「身近な清掃活動や美化活動等に参加したい」が11.2%で最も高い。



(4) 角田市独自の地域資源

角田市独自の地域資源として市外に発信する価値があるものについては、「JAXA角田宇宙センター」が31.1%と最も高く、次いで「道の駅かくだ」が27.7%、「角田スペースタワー・コスモハウスと台山公園」が25.5%となっている。そのほか、角田産の食ブランド、高蔵寺、角田中央公園が20%台で続いている。

【角田市独自の地域資源】



N=1197

注) 複数回答 (3個選択式)

得票率は下式で算出

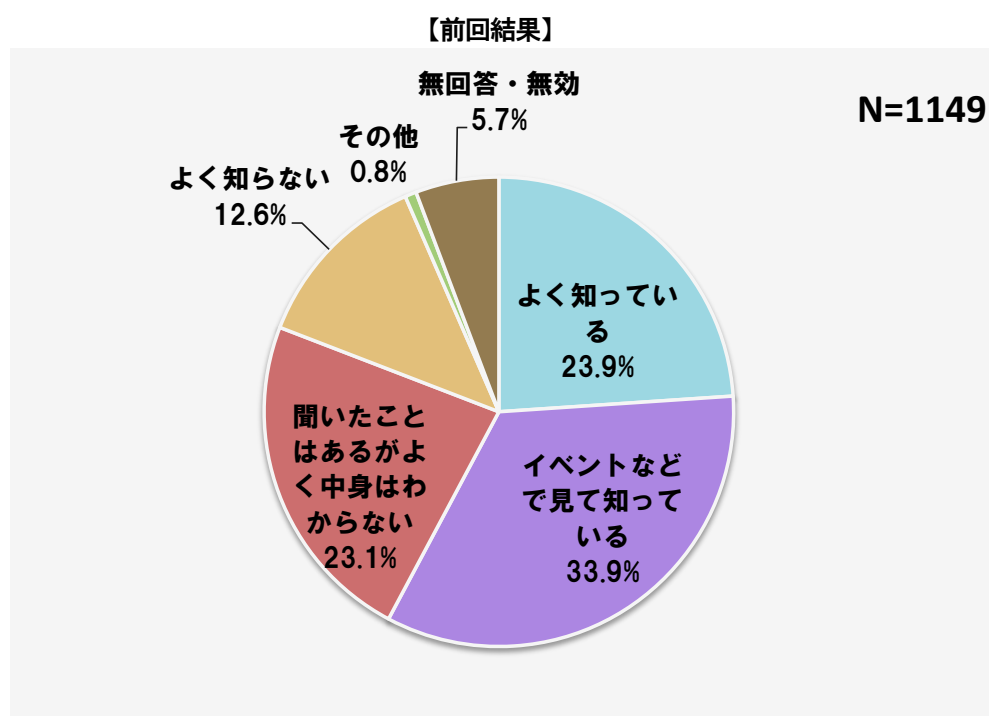
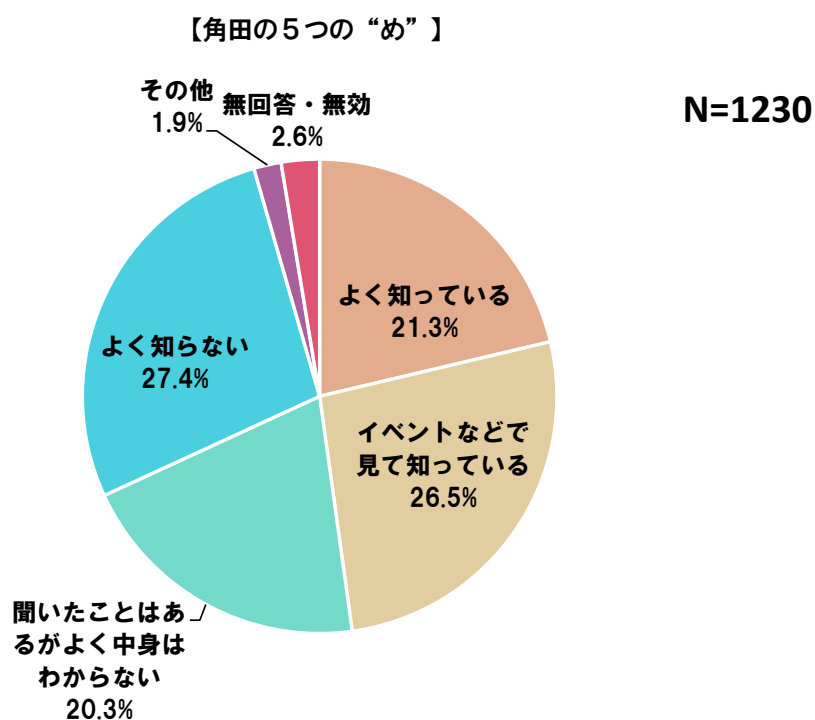
$$(\text{得票率}) = (\text{有効回答数}) \div (\text{有効回答者数}) \times 100$$

(5) 角田の5つの“め”

角田の5つの“め”については、「よく知っている」、「イベントなどで見て知っている」を合わせると、47.8%が知っていると回答している。一方、「聞いたことはあるがよく中身はわからない」、「よく知らない」の合計は47.7%となっている。

また「その他」では「全く知らない」「こめ・まめ・うめは知っているけど他の2つは知らない」「知っているがイメージが薄い」という意見も見られる。

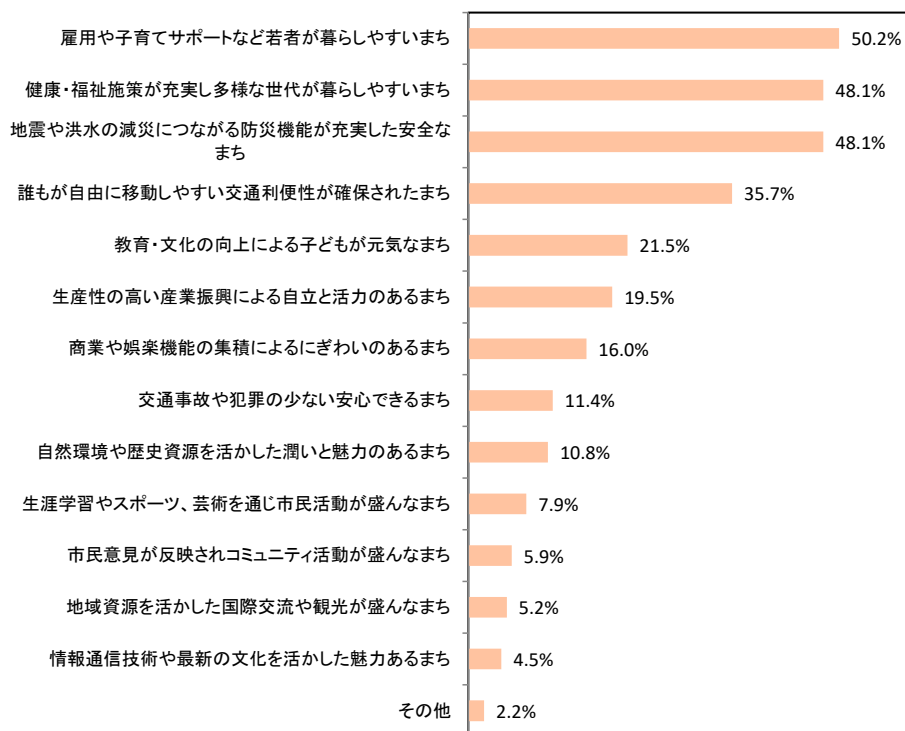
前回と比較すると、「知らない」の割合が上がっている。



(6) これから重点をおくべき施策について

これから重点をおくべき施策については、「雇用や子育てサポートなど若者が暮らしやすいまち」が 50.2%と、最も高い。次いで「健康・福祉施策が充実し多様な世代が暮らしやすいまち」、「地震や洪水の減災につながる防災機能が充実した安全なまち」が 48.1%となっている。

【これから重点をおくべき施策】



N=1207

注) 複数回答 (3 個選択式)

得票率は下式で算出

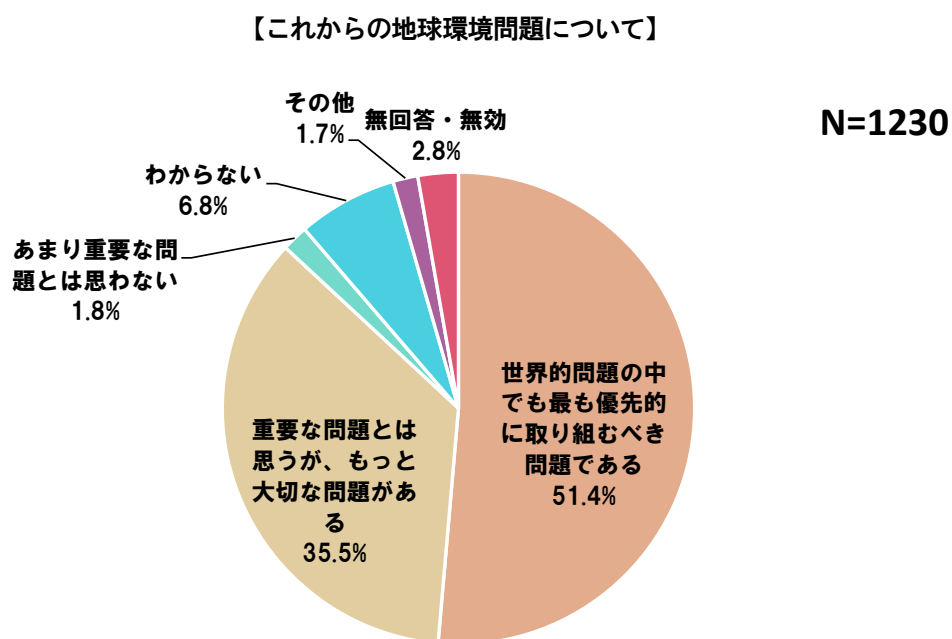
$$(\text{得票率}) = (\text{有効回答数}) \div (\text{有効回答者数}) \times 100$$

5 角田市の環境政策やあなたの環境意識について

- これからの地球環境問題については、「重要な問題」と感じている人が8割を超えている。
- 良い環境にするために行政がすべきことは、公園や下水道等の施設の整備が挙げられている。
- 環境保護のための対策や活動については、家庭ごみの分別や減量についての興味・関心度が高く、実践している人が多い。

(1) これからの地球環境問題について

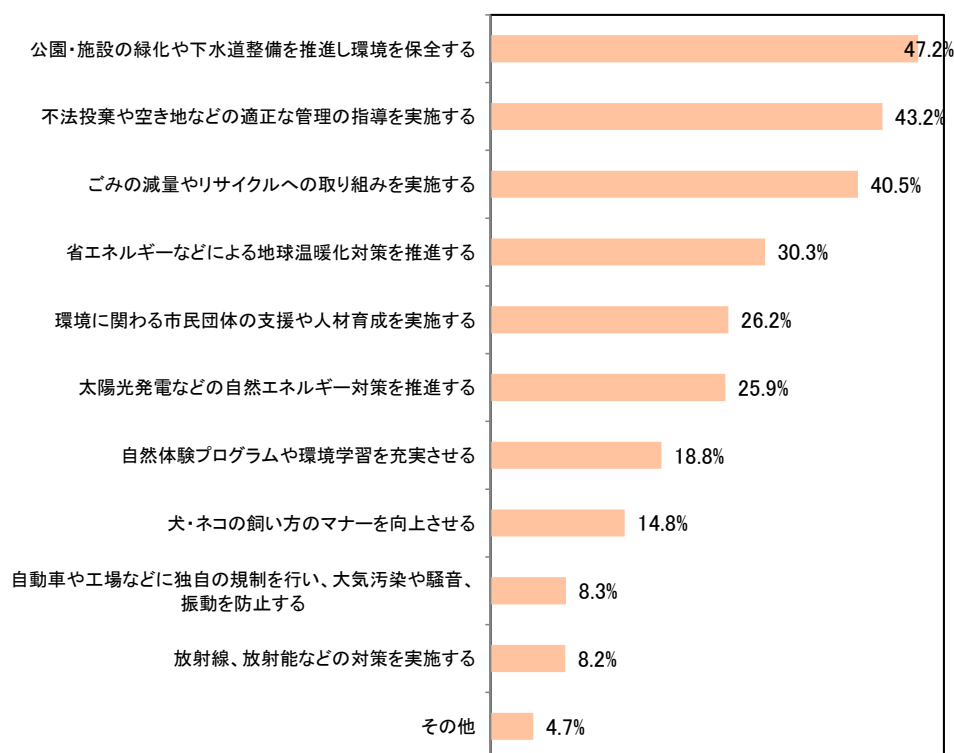
これからの地球環境問題については、51.4%が「世界的問題の中でも最も優先的に取り組むべき問題である」と回答している。また、「重要な問題とは思いますが、もっと大切な問題がある」も35.5%であり、「重要な問題である」と認識している人は8割を超えている。



(2) 良い環境にするために行政がすべきこと

良い環境にするために行政がすべきことは、「公園・施設の緑化や下水道整備を推進し環境を保全する」が 47.2%と最も高く、次いで「不法投棄や空き地などの適正な管理の指導を実施する」が 43.2%、「ごみの減量やリサイクルへの取り組みを実施する」が 40.5%となっている。

【良い環境にするために行政がすべきこと】



N=1189

(3) 環境保護のための対策や活動

環境保護のための対策や活動について、「興味・関心度」と「自身の取り組み状況」を4段階評価で評価する。

評価は、それぞれの取り組み内容に対する「興味・関心度」と「自身の取り組み状況」の回答を点数化して表しており、興味・関心度・自身の取り組み状況の回答について、それぞれ「とても関心がある」・「いつも行っている」を2点、「やや関心がある」・「時々行っている」を1点、「あまり関心がない」・「今後行いたい」を-1点、「まったく関心がない」・「今後も行わない」を-2点として集計した。

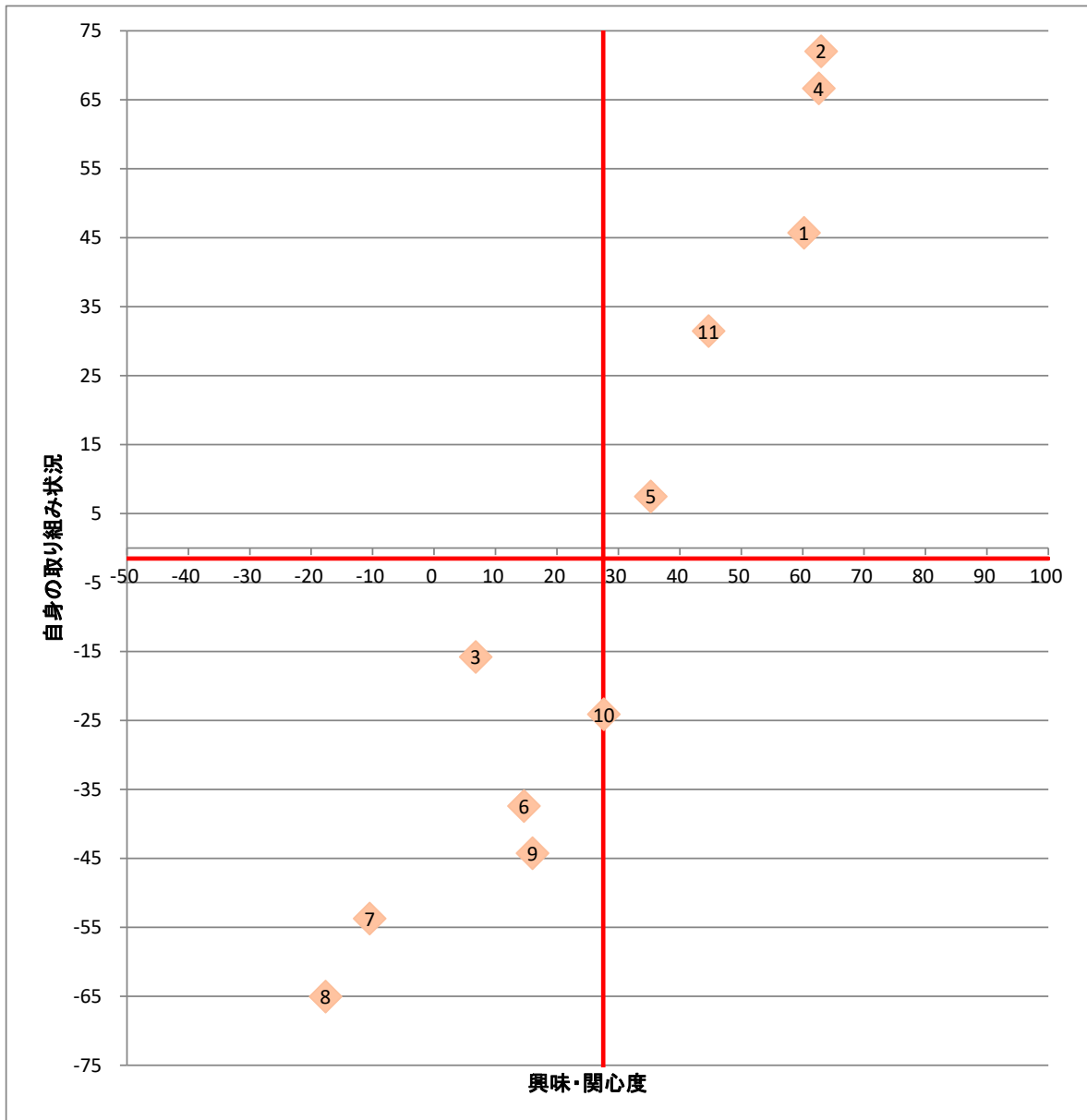
$$\text{点数} = \frac{(\text{「とても興味関心あり (いつも行っている)」} \times 2 \text{点} + \text{「やや興味関心あり (時々行っている)」} \times 1 \text{点} + \text{「あまり興味関心なし (今後行いたい)」} \times -1 \text{点} + \text{「興味関心なし (今後も行わない)」} \times -2 \text{点}) \times 50}{(\text{「とても興味関心あり (いつも行っている)」} \sim \text{「興味関心なし (今後も行わない)」} \text{回答総数 (無回答除く)})}$$

興味・関心度の平均点数は27.53ポイントとなっており、自身の取り組み状況の平均点数は-1.53ポイントとなっている。取り組み内容別にみると、興味・関心度と自身の取り組み状況ともに「家庭ごみの分別や減量（資源ごみに分別）」が最も高くなっている。

【「興味・関心度」と「自身の取り組み状況」】

	項目	興味・関心度	自身の取り組み状況
1	電気・ガス・水道・ガソリンなどの使用節減	60.21	45.71
2	家庭ごみの分別や減量(資源ごみに分別)	63.02	72.02
3	リサイクルショップ、フリーマーケット利用	6.78	-15.76
4	マイバッグ持参(レジ袋削減の取り組み)	62.62	66.65
5	地域の清掃活動や美化、緑化、植樹活動	35.28	7.50
6	動植物、昆虫、山や川などの自然保護活動	14.64	-37.39
7	環境学習会やイベント参加、環境施設見学	-10.47	-53.70
8	NPOや民間組織による環境保護活動	-17.65	-65.02
9	太陽光発電など自然エネルギーの利用	16.05	-44.24
10	エコカー(ハイブリット車)や省エネ型電化製品購入や買い替え	27.65	-24.10
11	冷暖房温度の調節(クールビズ・ウォームビズの取り組み)	44.68	31.46
	平均	27.53	-1.53

【興味・関心度・自身の取り組み状況からみた環境保護】



- 1 電気・ガス・水道・ガソリンなどの使用節減
- 2 家庭ごみの分別や減量(資源ごみに分別)
- 3 リサイクルショップ、フリーマーケット利用
- 4 マイバッグ持参(レジ袋削減の取り組み)
- 5 地域の清掃活動や美化、緑化、植樹活動
- 6 動植物、昆虫、山や川などの自然保護活動
- 7 環境学習会やイベント参加、環境施設見学
- 8 NPOや民間組織による環境保護活動
- 9 太陽光発電など自然エネルギーの利用
- 10 エコカー(ハイブリット車)や省エネ型電化製品購入や買い替え
- 11 冷暖房温度の調節(クールビズ・ウォームビズの取り組み)

※散布図中央に示す赤の横線、縦線は、興味・関心度、自身の取り組み状況各々11要素の平均値を表している。

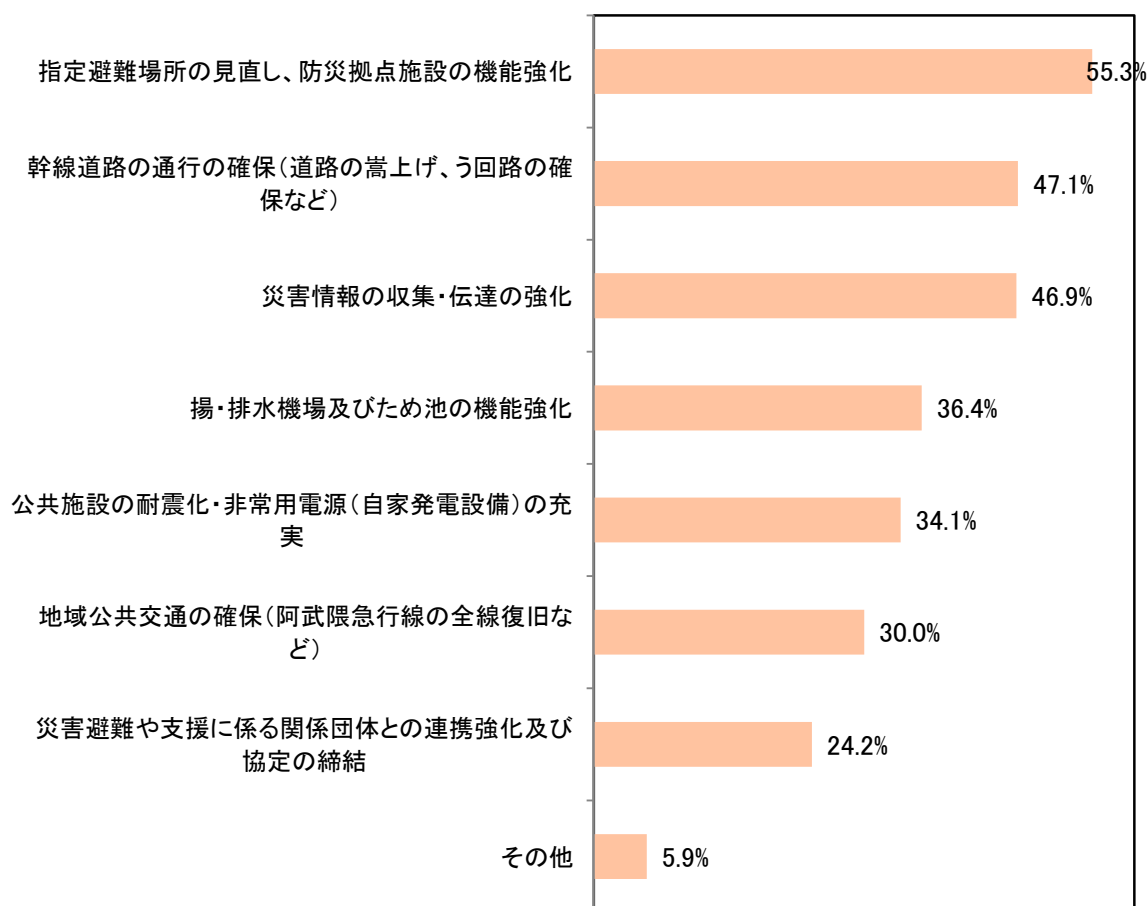
6 令和元年東日本台風等の被災経験を教訓とした今後の施策について

- 角田市が行うべき防災・減災に関する施策については、半数以上の人が「避難場所の見直しや機能強化」と回答している。
- 「幹線道路の通行の確保」や「災害情報の収集・伝達の強化」の割合についても4割以上と高い。

(1) 角田市が行うべき防災・減災に関する施策

角田市が行うべき防災・減災に関する施策については、「指定避難場所の見直し、防災拠点施設の機能強化」が55.3%と半数を超え最も高くなっている。次いで、「幹線道路の通行の確保（道路の嵩上げ、う回路の確保など）」が47.1%、「災害情報の収集・伝達の強化」が46.9%と高くなっている。

【角田市が行うべき防災・減災に関する施策】



N=1189

7 まちづくりについての自由意見

全回答数1,230票のうち、自由意見の記載は543票（44.1%）である。

自由記述の内容は多方面にわたっているが、今後の総合計画の方向性にかかわる提案、要望、課題や日々の市民生活における改善についての要望などとして、主な内容を列挙すると以下のような項目が比較的多く挙げられている。

- 交通問題（阿武隈急行に関すること※、市内外のバス交通などの要望）
- 医療の充実（診療科の増加等の要望、中核病院へのアクセス改善など）
- 子育て支援策や子どもの遊び場の要望、改善（若者の定住促進としての要望や医療費控除の所得制限の改善等）
- 角田の認知度を高めるための内外への情報発信の強化や観光振興
- 浸水等の災害、排水対策
- 教育（学校の統合化についての意見など）
- 人口減少、少子・高齢化にかかわる問題と若者の支援
- 「道の駅かくだ」に関する今後の利活用の方向性
- 産業面について雇用に関わる企業誘致や楽しめる場としての大型店舗立地の要望
- 水道料金、公共料金に関する改善要望
- 行財政の改善要望

※本調査は阿武隈急行が一部のみ運行中の期間に行われたものである。

